



下水道モニター

平成 29 年度 第2回アンケート結果

目 次

| | |
|---------------------------------------|---|
| 1. 調査の概要 | 1 |
| 2. 結果の概要 | 2 |
| 2.1 下水道の浸水対策について | 2 |
| 2.1.1 下水道の浸水対策についての認知度 | 2 |
| 2.1.2 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度 | 2 |
| 2.1.3 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価 | 2 |
| 2.1.4 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見 | 2 |
| 2.1.5 豪雨対策下水道緊急プランの認知度 | 2 |
| 2.1.6 豪雨対策下水道緊急プランの理解度 | 3 |
| 2.1.7 豪雨対策下水道緊急プランの期待度 | 3 |
| 2.2 家庭での浸水への対策について | 3 |
| 2.2.1 「浸水対策強化月間」の認知度 | 3 |
| 2.2.2 「浸水対策強化月間」の認知経路 | 3 |
| 2.2.3 家庭での浸水対策について | 3 |
| 2.2.4 家庭での浸水対策の安全性 | 3 |
| 2.3 東京アメッシュについて | 4 |
| 2.3.1 東京アメッシュの利用の有無 | 4 |
| 2.3.2 東京アメッシュの利用方法 | 4 |
| 2.3.3 東京アメッシュの利用頻度 | 4 |
| 2.3.4 東京アメッシュのGPS活用アイデア | 4 |
| 2.3.5 東京アメッシュを利用していない理由 | 4 |
| 3. 回答者属性 | 5 |
| 4. 集計結果 | 7 |
| 4.1 下水道の浸水対策について | 7 |

| | | |
|------------|--------------------------------|-----------|
| 4.1.1 | 下水道の浸水対策についての認知度..... | 7 |
| 4.1.2 | 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度..... | 12 |
| 4.1.3 | 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価 | 17 |
| 4.1.4 | 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見 | 22 |
| 4.1.5 | 豪雨対策下水道緊急プランの認知度..... | 23 |
| 4.1.6 | 豪雨対策下水道緊急プランの理解度..... | 24 |
| 4.1.7 | 豪雨対策下水道緊急プランの期待度..... | 25 |
| 4.2 | 家庭での浸水への対策について | 26 |
| 4.2.1 | 「浸水対策強化月間」の認知度..... | 26 |
| 4.2.2 | 「浸水対策強化月間」の認知経路 | 27 |
| 4.2.3 | 家庭での浸水対策について..... | 31 |
| 4.2.4 | 家庭での浸水対策の安全性..... | 35 |
| 4.2.5 | 家庭での浸水対策の安全性に対する理由..... | 36 |
| 4.3 | 東京アメッシュについて..... | 41 |
| 4.3.1 | 東京アメッシュの利用の有無 | 41 |
| 4.3.2 | 東京アメッシュの利用方法..... | 42 |
| 4.3.3 | 東京アメッシュの利用頻度..... | 43 |
| 4.3.4 | 東京アメッシュのGPS活用アイデア | 44 |
| 4.3.5 | 「東京アメッシュ」を利用していない理由 | 46 |

1. 調査の概要

(1) 調査目的

第2回アンケートでは、下水道の浸水対策・家庭での浸水対策についての認知度や評価、降雨に関する情報の利用方法などを把握するために実施した。

(2) 調査対象

①調査対象：東京都下水道局「平成29年度下水道モニター」

＊東京都在住20歳以上の男女個人

②調査対象の数：633名

③調査対象の抽出：インターネット上から「平成29年度下水道モニター」を募集

(3) 調査方法

インターネットによる自記式アンケート

(4) 回答回収率

モニター件数 : 633名

回答者数 : 455名

回答率 : 72%

(5) 調査項目

① 下水道の浸水対策

② 家庭での浸水への対策について

③ 東京アメッシュについて

(6) 調査期間

平成29年9月1日（金）～ 平成29年9月19日（火）

(7) 集計上・表記上への注意事項

① 本文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率（％）は全て「n」を基数として算出している。また、比率を小数点第一位で四捨五入し「0％」となる項目については、グラフ上の表記を省略する。

② 本文中の性別、年代、地域、子供と同居有無別分析において、性別、年代、地域、子供と同居それぞれにおける「無回答」「不明」は省略する。

2. 結果の概要

2.1 下水道の浸水対策について

2.1.1 下水道の浸水対策についての認知度

下水道の浸水対策への認知度について、「内容や意味を十分に知っている」と「内容や意味を少し知っている」、「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』では、「3）雨水調整池の整備」が81%と最も高く、次いで「9）浸水予想区域図の公表」が71%、「5）大規模地下街対策」が70%となった。

『認知度あり』の地区別では、「3）雨水調整池の整備」では23区部が82%、多摩地区が80%、「9）浸水予想区域図の公表」では23区部が71%、多摩地区が70%と、23区部が多摩地区よりそれぞれ2ポイント、1ポイント高くなった。

2.1.2 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度

下水道の浸水対策のイメージと具体策への理解度について、「良く理解できた」と「理解できた」を合わせた『理解できた』では、「3）雨水調整池の整備」が88%と最も高く、次いで「9）浸水予想区域図の公表」が86%、「1）浸水対策幹線の整備」と「8）雨水浸透ますの設置」が同じく85%となった。

『理解できた』を男女別でみると、「3）雨水調整池の整備」では男性が89%、女性が86%、「8）雨水浸透ますの設置」では男性が83%、女性が87%、「9）浸水予想区域図の公表」では男性が85%、女性が86%となり、男女間で大きな違いは見られなかった。

2.1.3 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価

下水道の浸水対策のイメージと具体策への評価について、「極めて有効である」と「有効である」を合わせた『有効である』では、「1）浸水対策幹線の整備」が90%と最も高く、次いで「2）ポンプ所の能力増強」と「3）雨水調整池の整備」、「7）増補管やバイパス管の整備」が同じく89%となった。

『有効である』を男女別でみると、全体的に女性の評価が高い傾向にあり、特に「9）浸水予想区域図の公表」では、男性に比べ、女性は12ポイント高い結果となった。

2.1.4 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見

下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見について、「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』が89%となった。

男女別では、『そう思う』は男性が90%、女性が89%となり、男女で大きな差はなかった。

2.1.5 豪雨対策下水道緊急プランの認知度

豪雨対策下水道緊急プランの認知度について、「知っていた」が11%、「知らなかった」が89%となった。

年代別では、「知っていた」では70歳以上が24%と最も高く、次いで60歳代が12%、30歳代が11%となった。

2.1.6 豪雨対策下水道緊急プランの理解度

豪雨対策下水道緊急プランの理解度について、「とても理解できた」と「理解できた」を合わせた『理解できた』が74%となった。

年代別では、『理解できた』は70歳以上が83%と最も高く、次いで40歳代が77%、60歳代が75%となった。

2.1.7 豪雨対策下水道緊急プランの期待度

豪雨対策下水道緊急プランの期待度について、「極めて有効である」と「有効である」を合わせた『有効である』が78%となった。

年代別では、『有効である』は60歳代が86%と最も高く、次いで70歳以上が85%、30歳代が76%となった。

2.2 家庭での浸水への対策について

2.2.1 「浸水対策強化月間」の認知度

「浸水対策強化月間」の認知度について、「内容や意味を知っている」と「少しは内容や意味を知っている」、「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知とあり』が47%となっており、5割未満と低い結果となった。

年代別では、『認知とあり』は年齢が大きくなるにつれ、割合も高くなっており、70歳代では61%と6割と最も高い結果となった。

2.2.2 「浸水対策強化月間」の認知経路

「浸水対策強化月間」の認知経路について、「東京都下水道局のホームページ」が48%と最も高く、次いで「東京都や東京都下水道局の広報誌」が47%となった。

年代別では、「東京都下水道局のホームページ」では40歳代が58%と最も高く、「東京都や東京都下水道局の広報誌」では70歳以上が68%と最も高くなった。

2.2.3 家庭での浸水対策について

家庭での浸水対策について、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」39%と最も多く、次いで「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が34%、「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」が25%となっている。一方、「この中でやっているものはない」は30%となった。

地区別では、全体的に地区の違いによる大きな差は見られなかったが、「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」では23区部が22%、多摩地区が30%と、多摩地区が23区部より8ポイント高い結果となった。

2.2.4 家庭での浸水対策の安全性

家庭での浸水対策の安全性について、「安全だと思う」と「たぶん安全だと思う」を合わせた『安全だと思う』が77%となった。

男女別では、『安全だと思う』は男性が78%、女性が74%と、男性が女性より4ポイント高い結果となった。

2.3 東京アメッシュについて

2.3.1 東京アメッシュの利用の有無

東京アメッシュの利用の有無について、『利用している』が39%、「利用してみたが、今は利用していない」と「利用していない」を合わせた『利用していない』が61%となった。

男女別では、『利用している』では男性が42%、女性が35%と、男性が女性より7ポイント高い結果となった。

2.3.2 東京アメッシュの利用方法

東京アメッシュの利用方法について、「パソコン版」が40%、「スマートフォン版」が25%、「パソコン版とスマートフォン版」が35%となった。

年代別では、「スマートフォン版」では30歳代が30%と最も高く、次いで60歳代が31%、50歳代が27%となった。

2.3.3 東京アメッシュの利用頻度

東京アメッシュの利用頻度について、「週に2～4回」が33%と最も高く、次いで「週に1回未満」が25%、「週に1回」が24%、「週に5回以上（ほぼ毎日）」が18%となった。

年代別では、「週に2～4回」では40歳代が42%と最も高く、次いで50歳代が34%となった。一方、30歳代では17%と最も低い結果となった。

2.3.4 東京アメッシュのGPS活用アイデア

「東京アメッシュのGPS活用アイデアについて、「その他」が41%と最も多く、次いで「地点登録」が21%、「雲の動きを見ている」が15%となった。

2.3.5 東京アメッシュを利用していない理由

「東京アメッシュ」を利用していない理由について、「別の気象情報を使用している」が45%と最も高く、次いで「利用方法がわからない」が27%、「必要性が無い」が15%となった。

男女別では「別の気象情報を使用している」では男性が44%、女性が46%と、女性と男性で大きな差は見られなかった。

3. 回答者属性

第2回モニターアンケートは、平成29年9月1日（金）から9月19日（火）までの19日間で実施した。その結果、455名の方から回答があった。（回答率72%）

■ 回答者数（性別、年代別、職業別、地区別）

| 性別 | 回答者数 | モニター数 | 回答率 |
|----|------|-------|-----|
| 男性 | 239 | 334 | 72% |
| 女性 | 216 | 299 | 72% |
| 合計 | 455 | 633 | 72% |

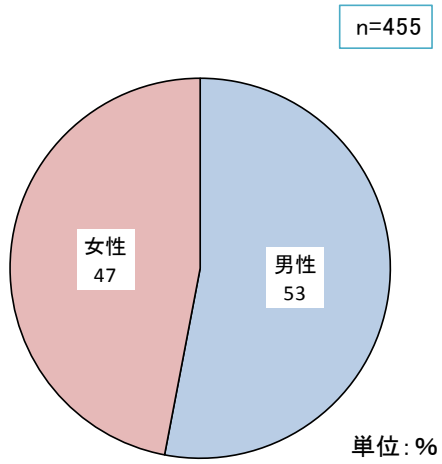
| 年代 | 回答者数 | モニター数 | 回答率 |
|-------|------|-------|-----|
| 20歳代 | 13 | 35 | 37% |
| 30歳代 | 75 | 121 | 62% |
| 40歳代 | 146 | 207 | 71% |
| 50歳代 | 93 | 116 | 80% |
| 60歳代 | 83 | 101 | 82% |
| 70歳以上 | 45 | 53 | 85% |
| 合計 | 455 | 633 | 72% |

| 地域 | 回答者数 | モニター数 | 回答率 |
|------|------|-------|-----|
| 23区 | 273 | 374 | 73% |
| 多摩地区 | 182 | 259 | 70% |
| 合計 | 455 | 633 | 72% |

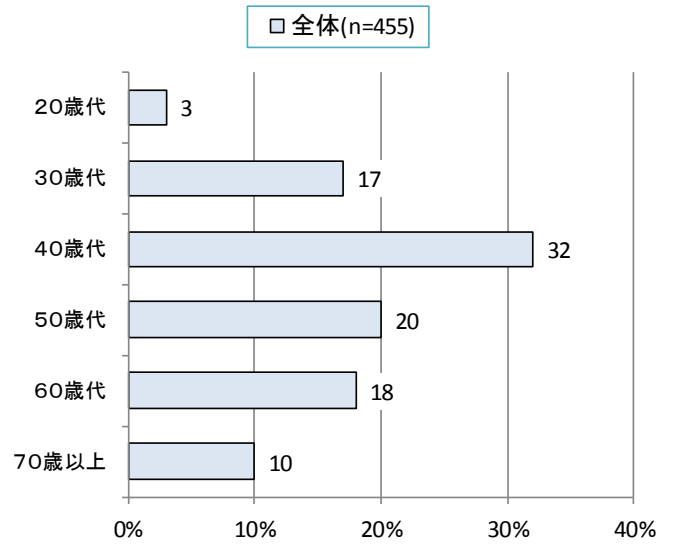
| 職業 | 回答者数 | モニター数 | 回答率 |
|------------|------|-------|------|
| 会社員 | 170 | 252 | 67% |
| 自営業 | 40 | 53 | 75% |
| 学生 | 5 | 13 | 38% |
| 私立学校教員・塾講師 | 3 | 3 | 100% |
| パート | 41 | 49 | 84% |
| アルバイト | 12 | 17 | 71% |
| 専業主婦 | 96 | 137 | 70% |
| 無職 | 75 | 85 | 88% |
| その他 | 13 | 24 | 54% |
| 合計 | 455 | 633 | 72% |

■ 回答者属性別グラフ

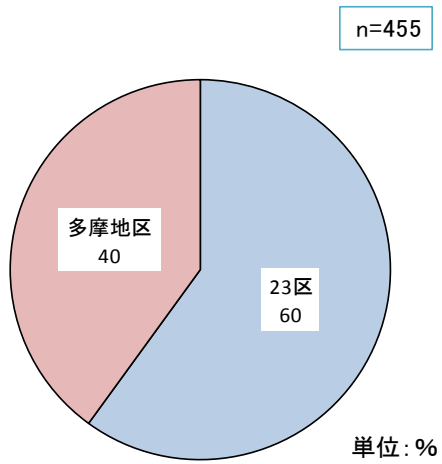
<性別>



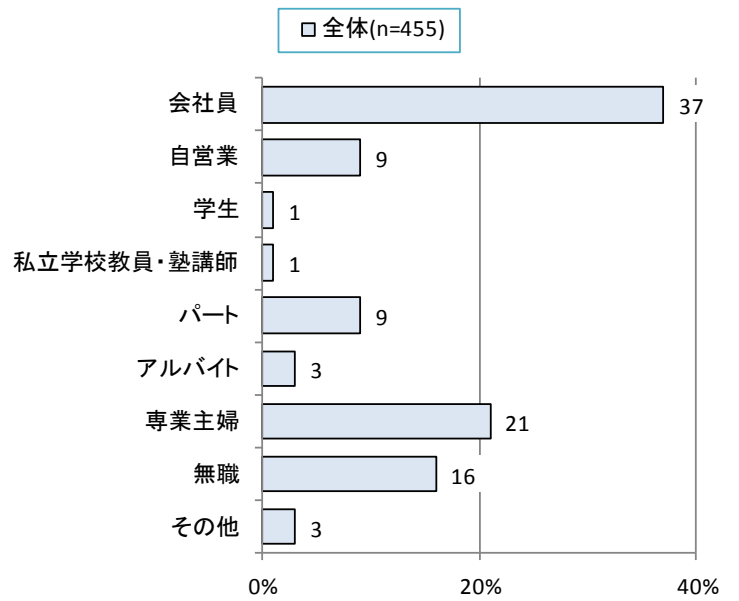
<年代別>



<地区別>



<職業別>



4. 集計結果

※ 文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率（％）はすべて「n」を基数（100％）として算出している。

4.1 下水道の浸水対策について

4.1.1 下水道の浸水対策についての認知度

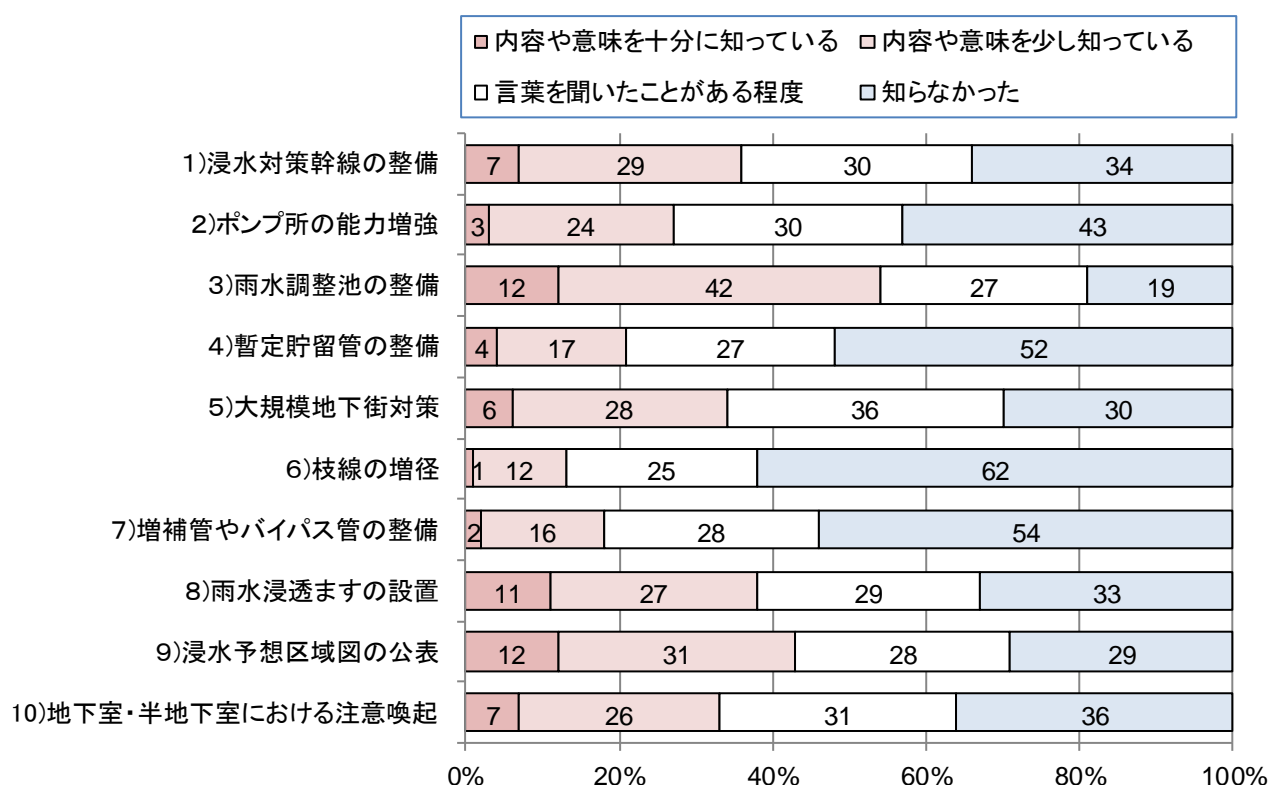
- ◆ 下水道の浸水対策への認知度について、「内容や意味を十分に知っている」、「内容や意味を少し知っている」と「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』では、「3）雨水調整池の整備」が81％と最も多く、次いで「9）浸水予想区域図の公表」が71％、「5）大規模地下街対策」が70％となった。一方、「4）暫定貯留管の整備」、「7）増補管やバイパス管の整備」はそれぞれ48％、46％と低かったが、特に、「6）枝線の増径」は38％と最も低かった。
- ◆ 『認知度あり』を男女別にみると、全体的に、男性の認知度が高い傾向となっており、中でも「4）暫定貯留管の整備」、「2）ポンプ所の能力増強」、「6）枝線の増径」は男女間の差が大きく、それぞれ男性が女性より30ポイント、26ポイント、26ポイント高い結果となった。
- ◆ 『認知度あり』を年代別にみると、「3）雨水調整池の整備」は多くの世代で認知度が高く、60歳代は90％、次いで50歳代が87％、70歳代以上が86％、40歳代が82％となった。一方、20代では「5）大規模地下街対策」と「9）浸水予想区域図の公表」が最も高く、ともに54％となった。
- ◆ 『認知度あり』を地区別にみると、「4）暫定貯留管の整備」、「2）ポンプ所の能力増強」、「10）地下室・半地下室における注意喚起」で、23区部が多摩地区よりそれぞれ6ポイント、5ポイント、5ポイント高くなり、「8）雨水浸透ますの設置」では多摩地区が7ポイント高い結果となった。一方、他の施策では、地区別で大きな違いは見られなかった。
- ◆ 『認知度あり』を経年比較でみると、今年度は「1）浸水対策幹線の整備」では平成27年度調査より減少傾向にあり、平成28年度調査と比較して5ポイント減少した。一方、「4）暫定貯留管の整備」と「6）枝線の増径」では変動があるものの、今年度は平成28年度調査よりそれぞれ5ポイント、3ポイント増加した。

近年、都市化が進んだことによる雨水流入量の増加や頻発する局地的な大雨などによって、浸水被害が発生しています。東京都下水道局では、大雨から街を守るため、下水道管や貯留施設の整備など、下水道による浸水対策を進めています。

Q 5 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組についてうかがいます。以下のそれぞれの項目について、あなたはこのことをご存知でしたか？該当する選択肢を一つだけお選び下さい。（単一回答）

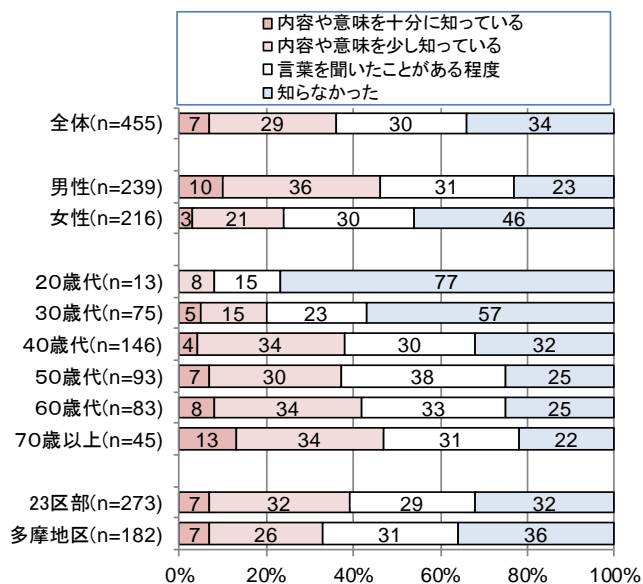
- 1) 浸水対策幹線の整備
- 2) ポンプ所の能力増強
- 3) 雨水調整池の整備
- 4) 暫定貯留管の整備
- 5) 大規模地下街対策
- 6) 枝線の増径
- 7) 増補管やバイパス管の整備
- 8) 雨水浸透ますの設置
- 9) 浸水予想区域図の公表
- 10) 地下室・半地下室における注意喚起

図表 4－1－1 下水道の浸水対策についての認知度

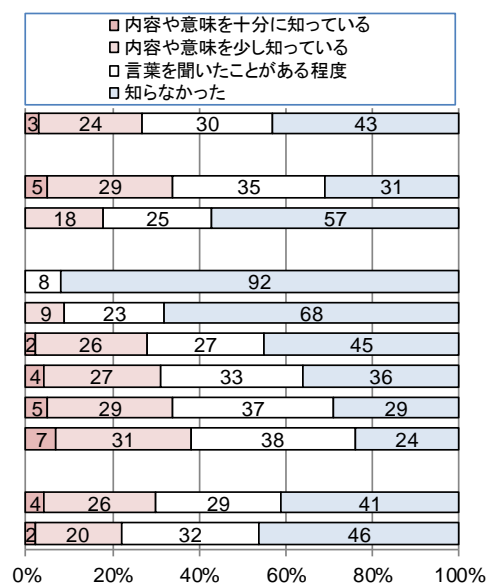


図表 4－1－1－1 下水道の浸水対策についての認知度
(性別・年代別・地区別)

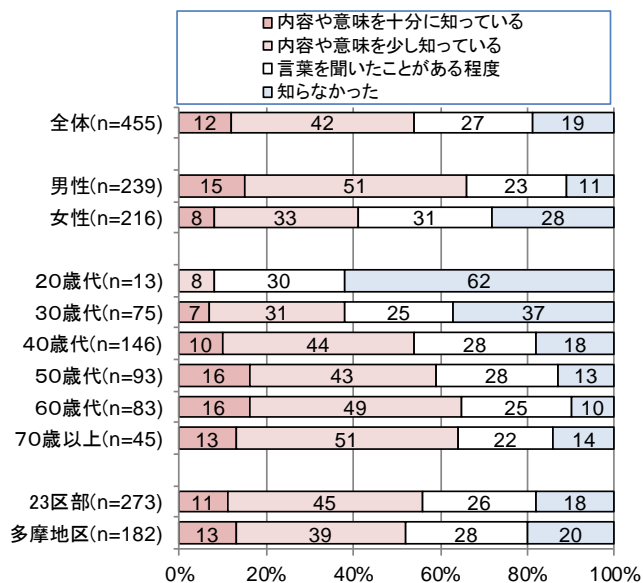
1) 浸水対策幹線の整備



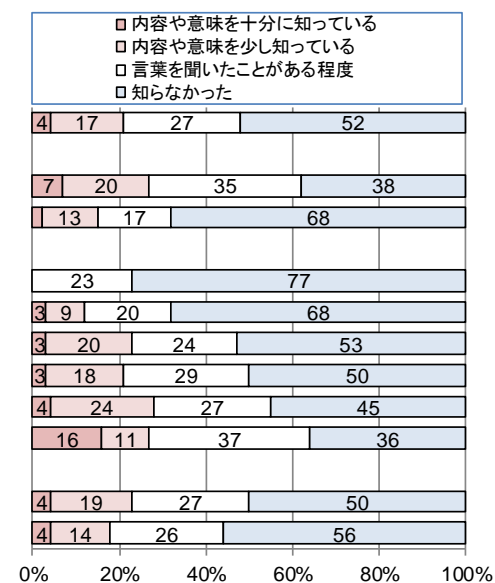
2) ポンプ所の能力増強



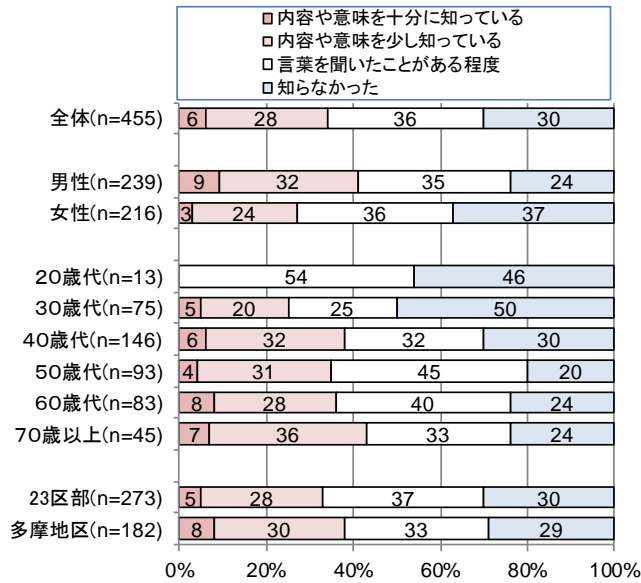
3) 雨水調整池の整備



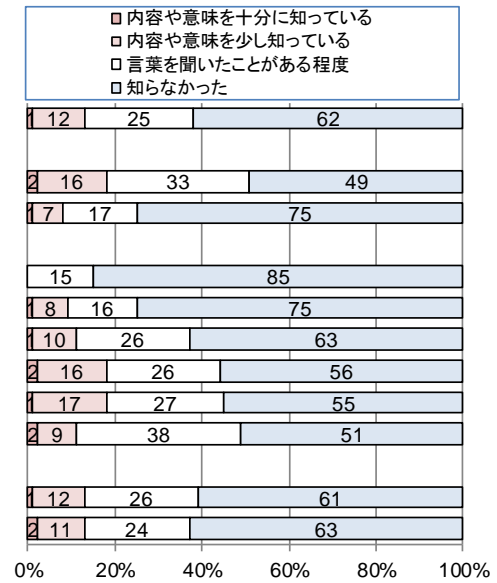
4) 暫定貯留管の整備



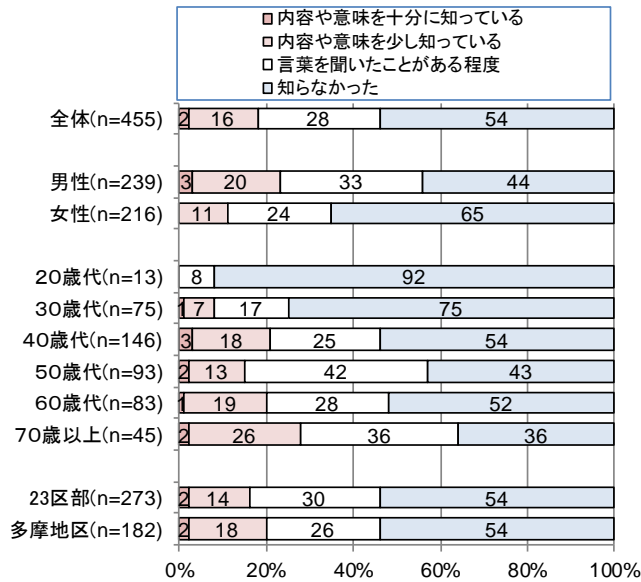
5) 大規模地下街対策



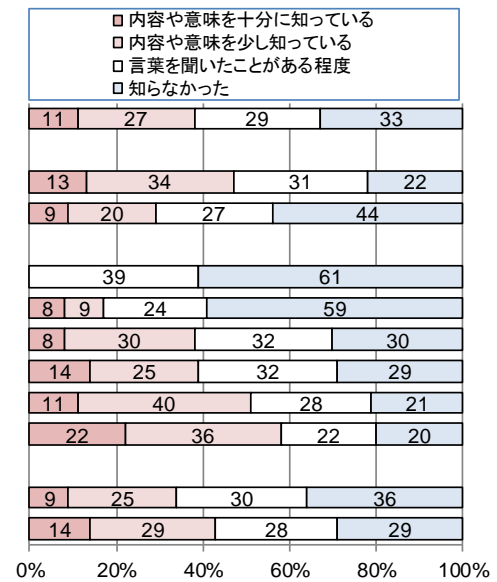
6) 枝線の増径



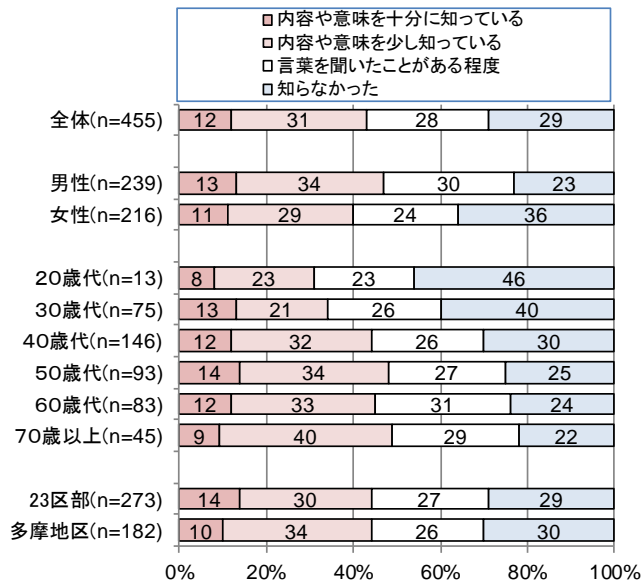
7) 増補管やバイパス管の整備



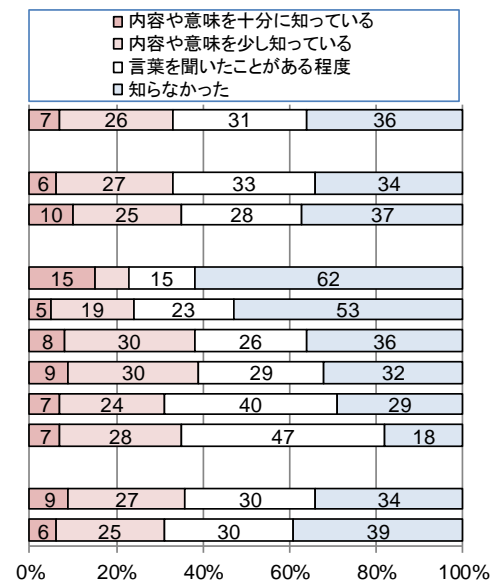
8) 雨水浸透ますの設置



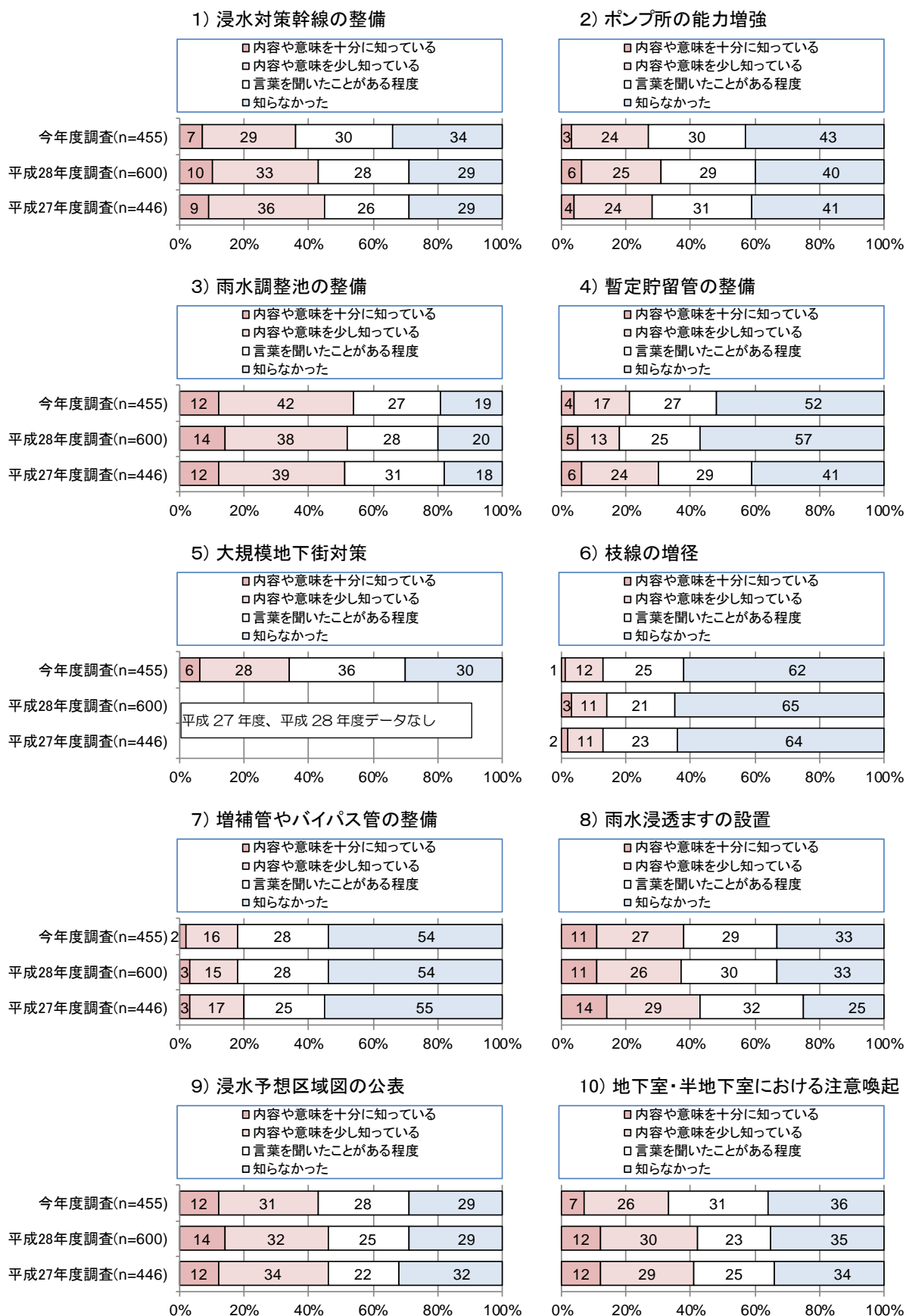
9) 浸水予想区域図の公表



10) 地下室・半地下室における注意喚起



図表 4－1－1－2 下水道の浸水対策についての認知度
(経年比較)



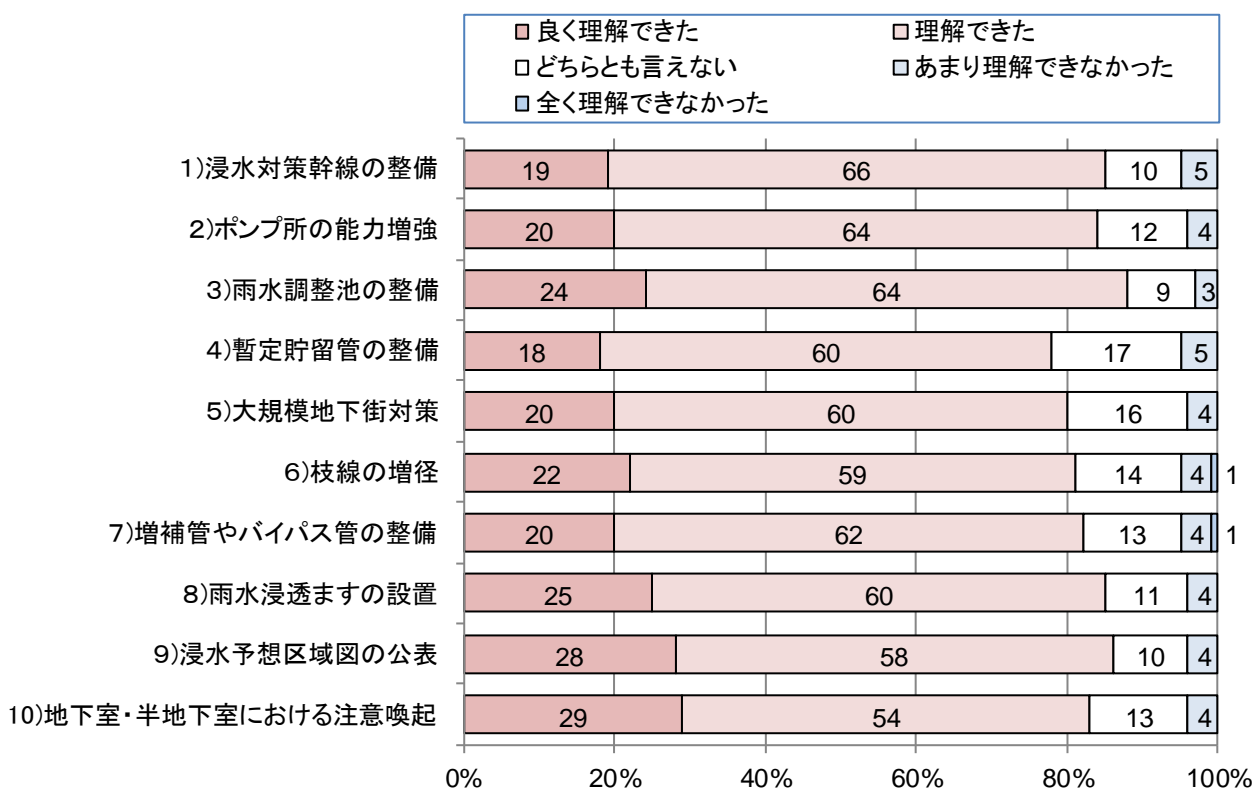
4.1.2 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度

- ◆ 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度について、「良く理解できた」と「理解できた」を合せた『理解できた』では、「3）雨水調整池の整備」、「1）浸水対策幹線の整備」のようにテレビ等のメディア媒体で取り上げられる機会が多いもの、「8）雨水浸透ますの設置」、「9）浸水予想区域図の公表」のように目に見え把握しやすい施策については理解度が高い傾向が見られた。一方、「4）暫定貯留管の整備」、「6）枝線の増径」のように下水道局独自の施策で、一般都民の目に触れにくいものは、理解度が低い傾向が見られた。
 - ◆ 『理解できた』を男女別にみると、全般的に、女性に比べ男性の理解度が若干ながら高い傾向となった。一方、女性に関しては、「5）大規模地下街対策」、「8）雨水浸透ますの設置」、「10）地下室・半地下室における注意喚起」など、日常生活への関係が深い施策への理解度が高い傾向となった。
 - ◆ 『理解できた』を年代別にみると、30 歳代、50 歳代、70 歳以上では、全体の結果と同様な傾向で、「3）雨水調整池の整備」が最も多く、それぞれ 88%、91%、92%となった。一方、20 歳代と 60 歳代では「2）ポンプ所の能力増強」が 92%、86%と最も高く、40 歳代では「9）浸水予想区域図の公表」が 90%と最も高い結果となり、世代により違いが見られた。
 - ◆ 『理解できた』を地区別にみると、「10）地下室・半地下室における注意喚起」で 23 区部が 85%、多摩地区が 79%と 23 区部が多摩地区より 6 ポイント高い結果となったが、他の施策では地区別での大きな違いは見られなかった。
 - ◆ 『理解できた』を経年比較でみると、全体的に今年度は平成 28 年度調査より減少傾向にあり、「1）浸水対策幹線の整備」、「6）枝線の増径」、「7）増補管やバイパス管の整備」では 5 ポイントずつ減少し、「2）ポンプ所の能力増強」、「4）暫定貯留管の整備」では 7 ポイント減少した。
-

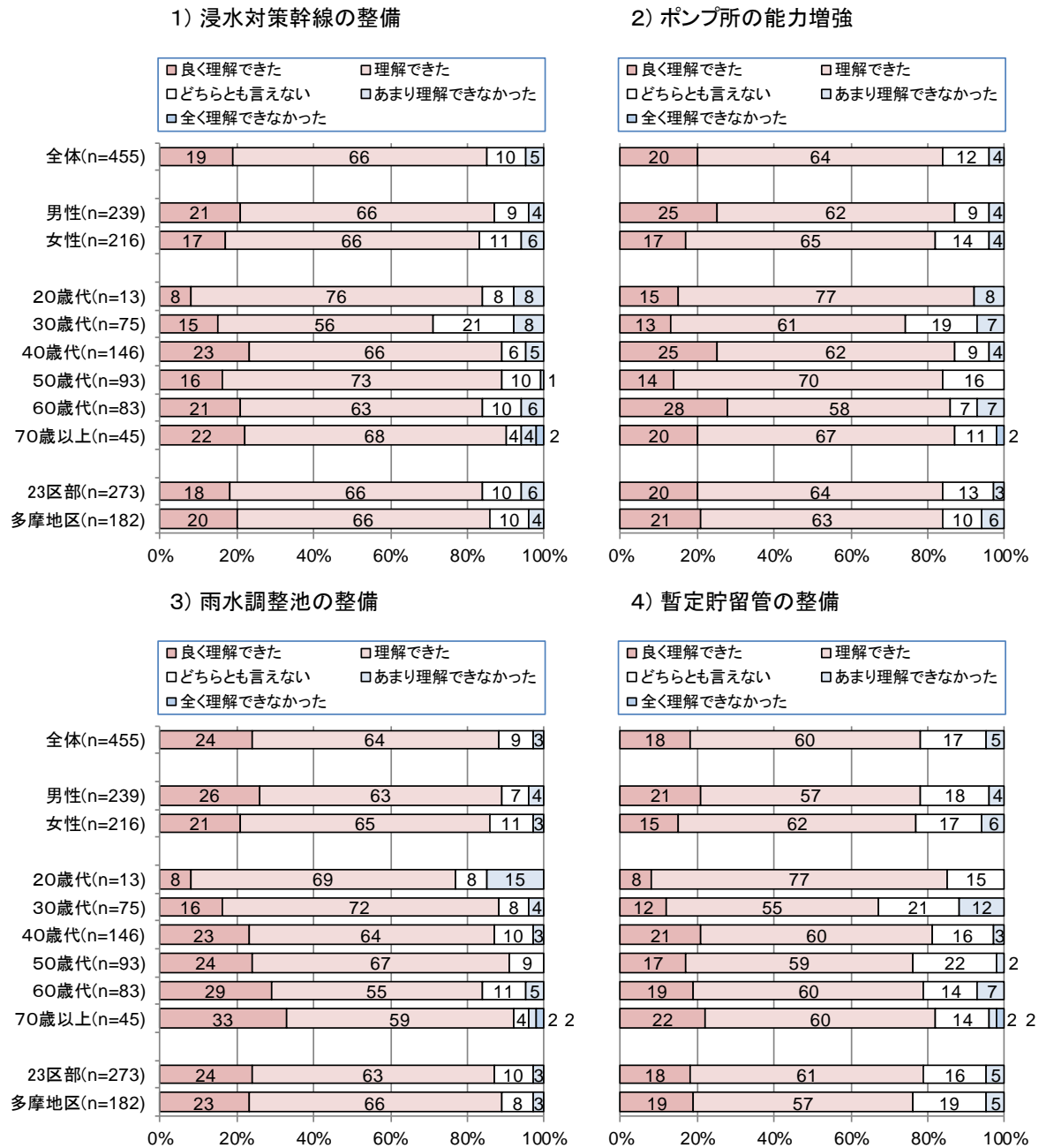
Q 6 浸水対策のイメージと具体策をご覧いただき、以下に示す各取組について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの理解度をお答えください。(単一回答)

- 1) 浸水対策幹線の整備
- 2) ポンプ所の能力増強
- 3) 雨水調整池の整備
- 4) 暫定貯留管の整備
- 5) 大規模地下街対策
- 6) 枝線の増径
- 7) 増補管やバイパス管の整備
- 8) 雨水浸透ますの設置
- 9) 浸水予想区域図の公表
- 10) 地下室・半地下室における注意喚起

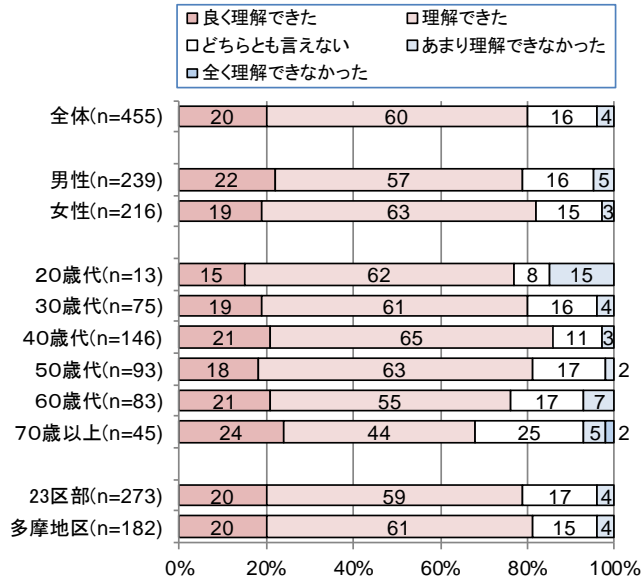
図表 4－1－2 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度



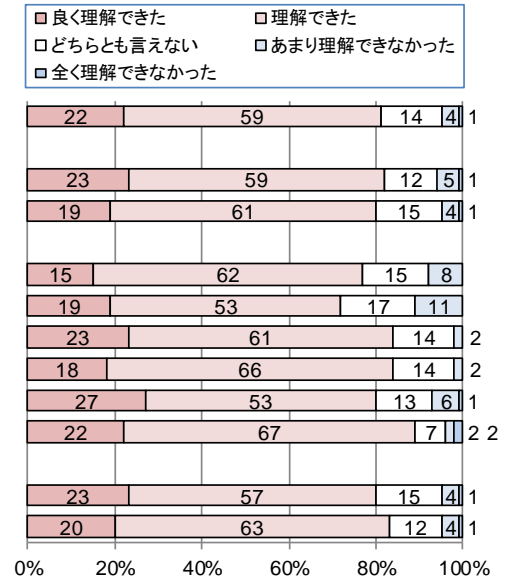
図表 4－1－2－1 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度
(性別・年代別・地区別)



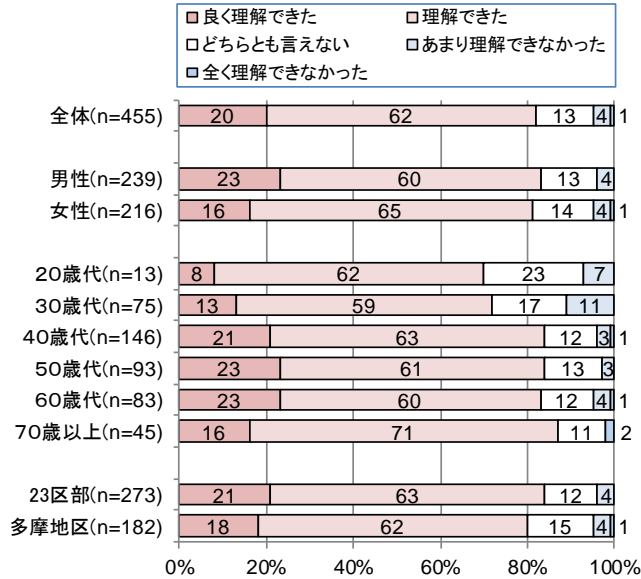
5) 大規模地下街対策



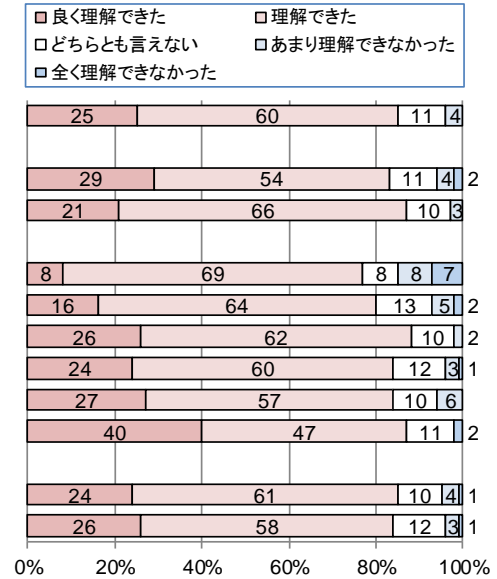
6) 枝線の増径



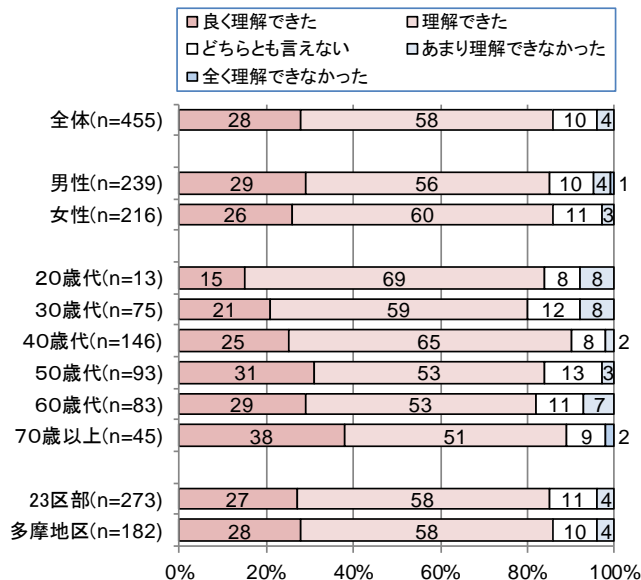
7) 増補管やバイパス管の整備



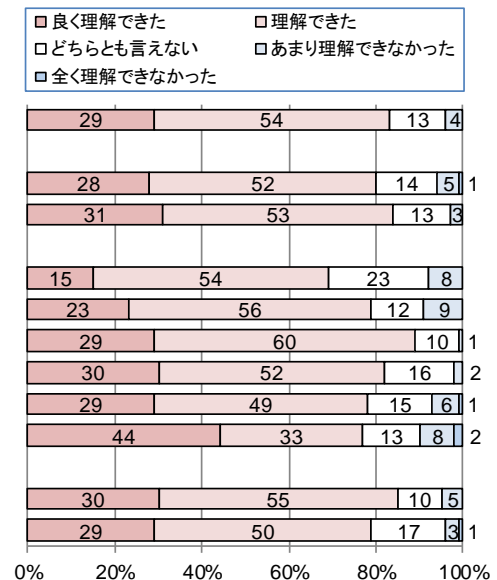
8) 雨水浸透ますの設置



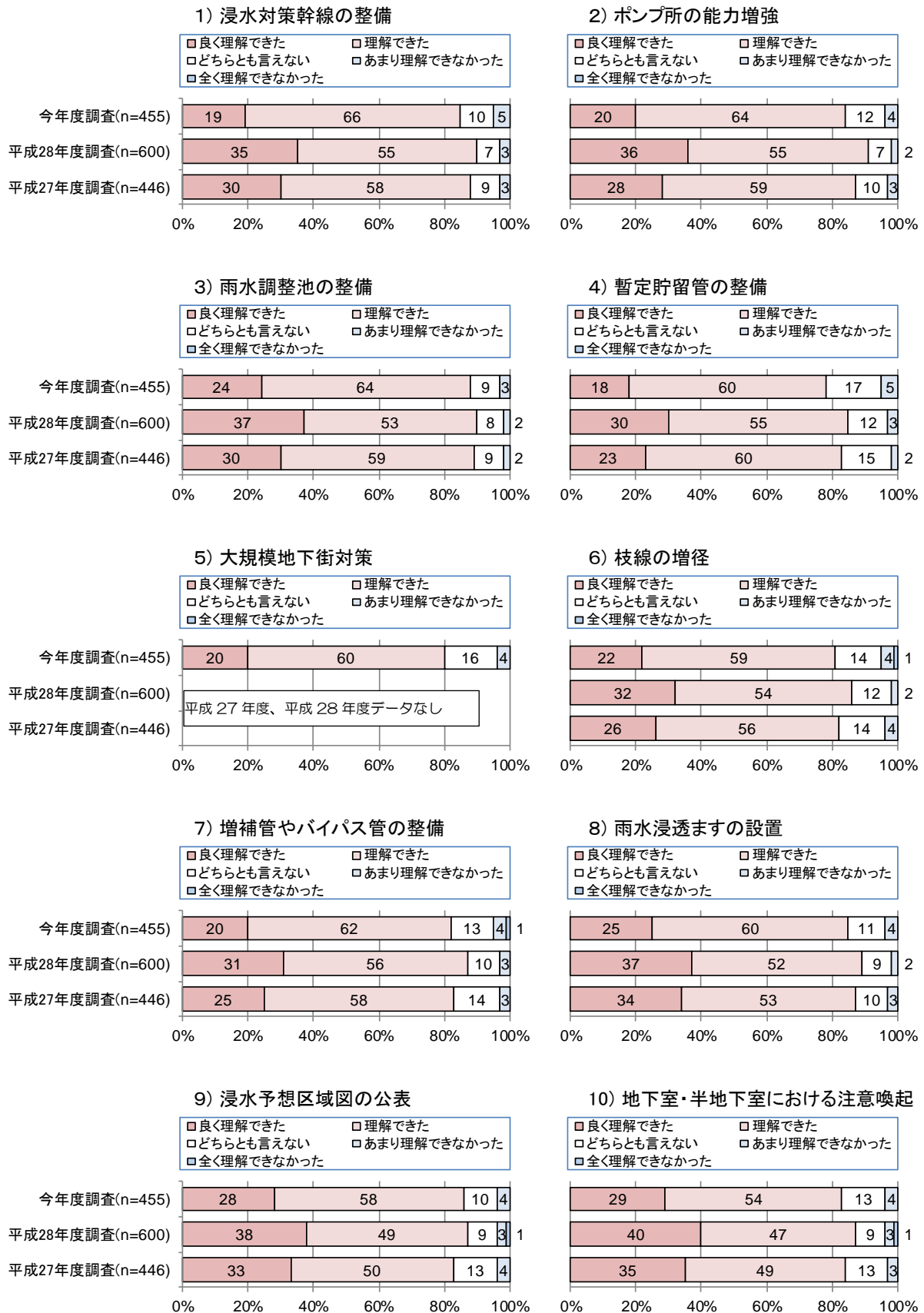
9) 浸水予想区域図の公表



10) 地下室・半地下室における注意喚起



図表 4－1－2－2 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度
(経年比較)



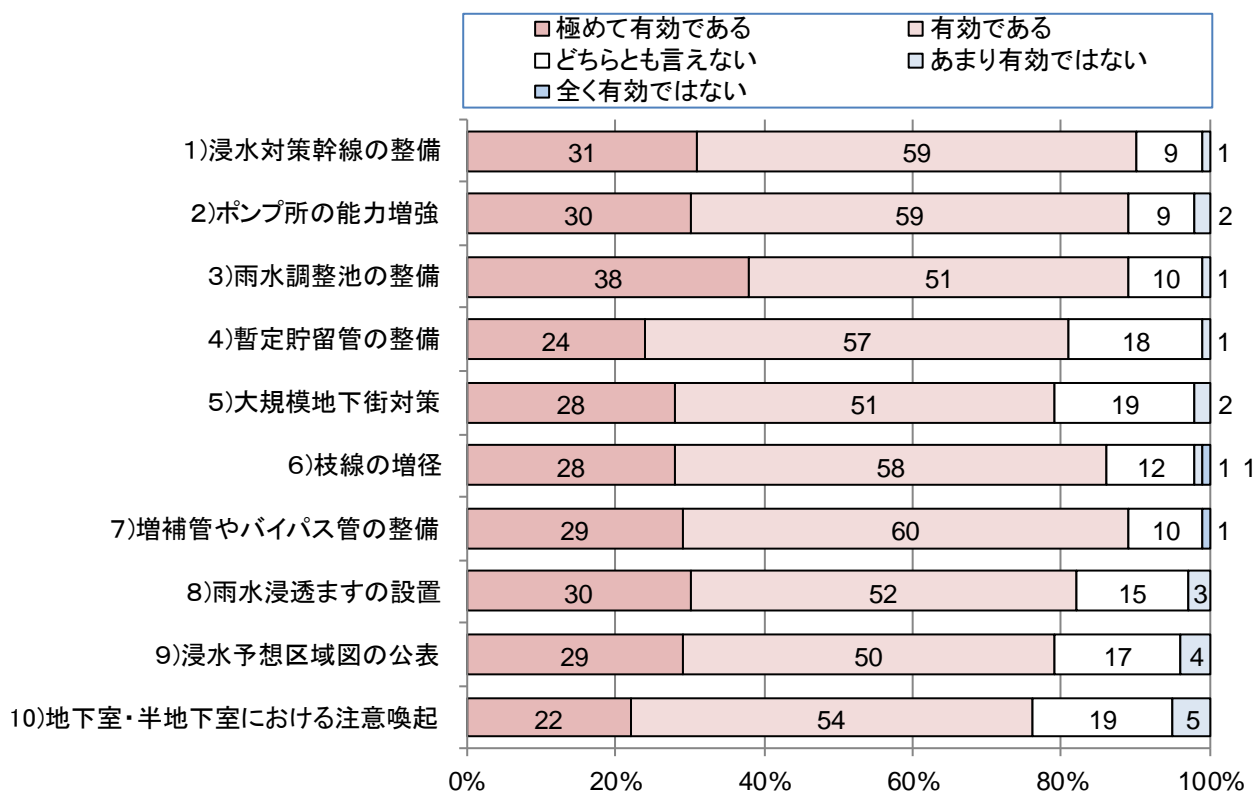
4.1.3 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価

- ◆ 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価について、「極めて有効である」と「有効である」を合わせた『有効である』では、「１）浸水対策幹線の整備」が 90%と最も高く、次いで「２）ポンプ所の能力増強」と「３）雨水調整池の整備」、「７）増補管やバイパス管の整備」が同じく 89%となった。
 - ◆ 『有効である』を男女別にみると、全体的に女性の評価が高い傾向にあり、特に「９）浸水予想区域図の公表」では、男性に比べ、女性は 12 ポイント高い結果となった。認知度、理解度においては、男性の方が高かったが、女性はアンケートに参加されたことで各施策を初めて認知し、ご理解いただいたことでより評価が高まる傾向にあったのではないかと考える。
 - ◆ 『有効である』を年代別にみると、「１）浸水対策幹線の整備」では年代の違いによる大きな差は見られず、全体的に、約 90%と高かった。「２）ポンプ所の能力増強」では 70 歳以上が 94%と最も高く、次いで 60 歳代が 93%、40 歳代が 90%となっている。また、「３）雨水調整池の整備」では 60 歳代が 94%と最も高く、次いで 40 歳代が 92%、「７）増補管やバイパス管の整備」では 70 歳以上が 91%と最も高く、次いで 40 歳代が 90%と高い結果となった。
 - ◆ 『有効である』を地区別にみると、全体的に地区による大きな違いは見られなかった。
 - ◆ 『有効である』を経年比較でみると、今年度はどの施策も平成 28 年度調査に比べ大きな変化は見られなかったが、どの施策も「極めて有効である」の割合は減少しており、各施策に対するモニターの評価が厳しい結果となった。
-

Q 7 上記Q 6と同様に、以下に示す各取組について、浸水被害の軽減にどれほど有効であるか、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。（単一回答）

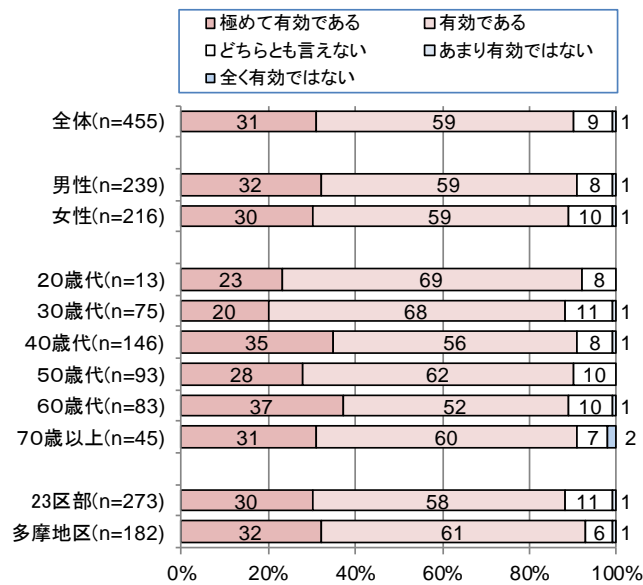
- 1) 浸水対策幹線の整備
- 2) ポンプ所の能力増強
- 3) 雨水調整池の整備
- 4) 暫定貯留管の整備
- 5) 大規模地下街対策
- 6) 枝線の増径
- 7) 増補管やバイパス管の整備
- 8) 雨水浸透ますの設置
- 9) 浸水予想区域図の公表
- 10) 地下室・半地下室における注意喚起

図表 4－1－3 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価

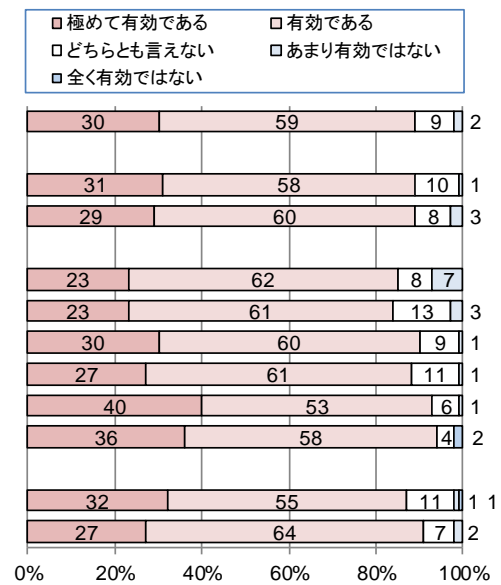


図表 4－1－3－1 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価
(性別・年代別・地区別)

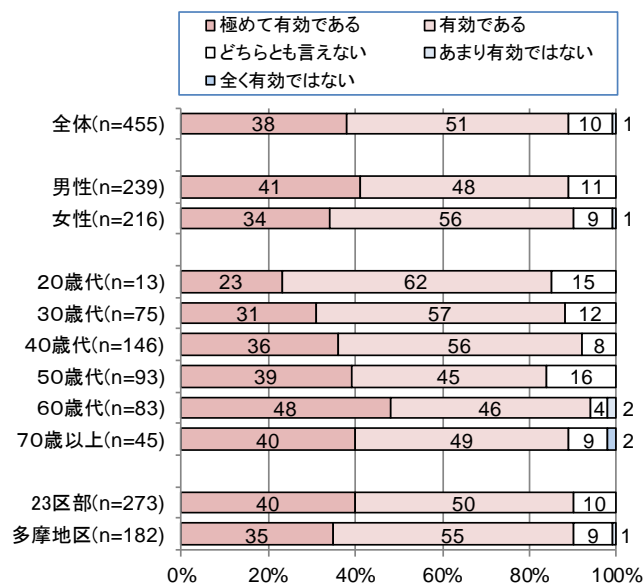
1) 浸水対策幹線の整備



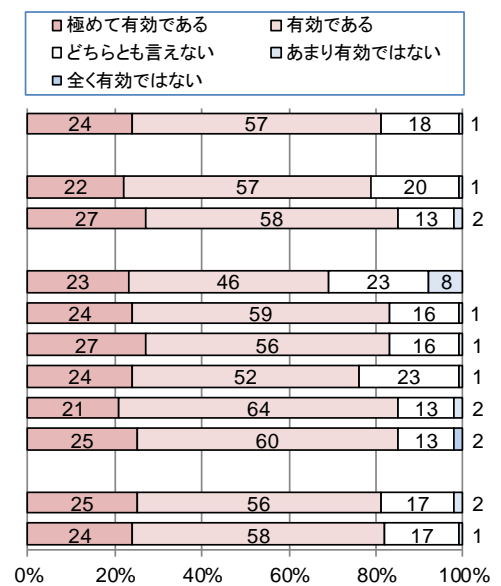
2) ポンプ所の能力増強



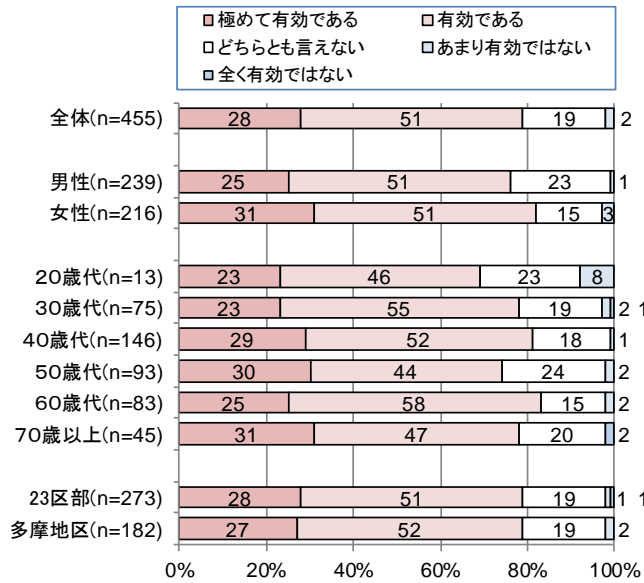
3) 雨水調整池の整備



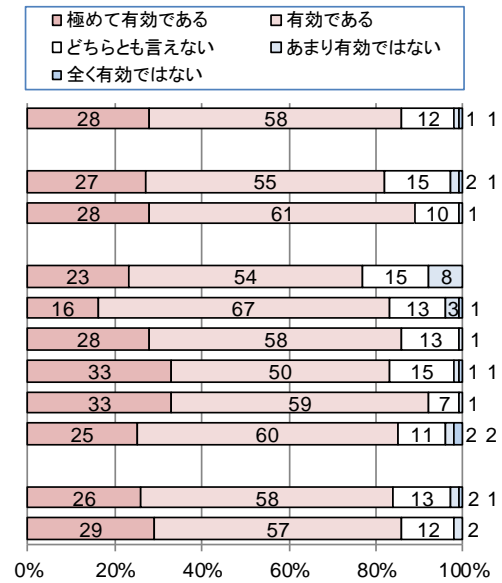
4) 暫定貯留管の整備



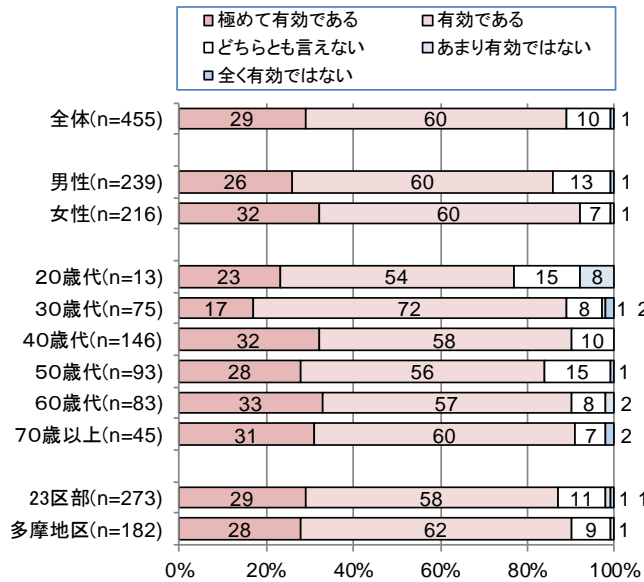
5) 大規模地下街対策



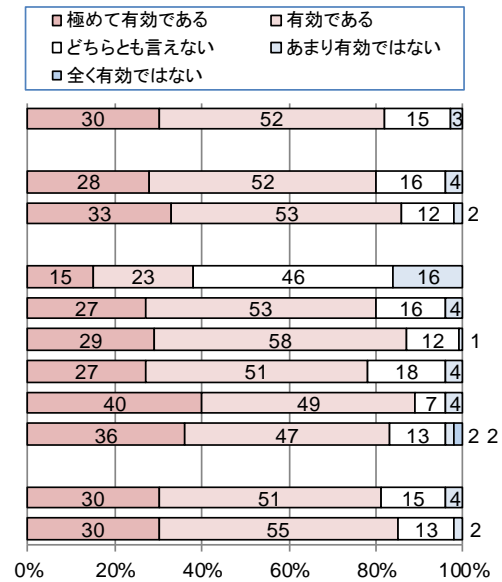
6) 枝線の増径



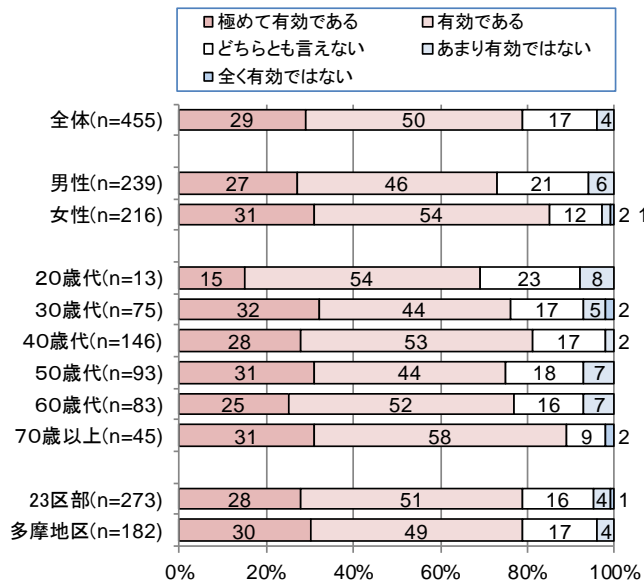
7) 増補管やバイパス管の整備



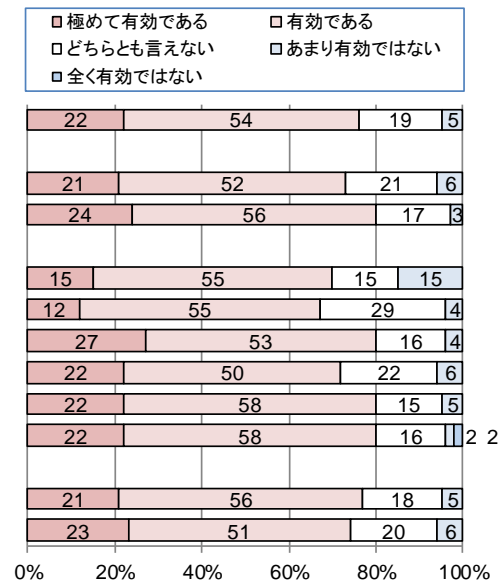
8) 雨水浸透ますの設置



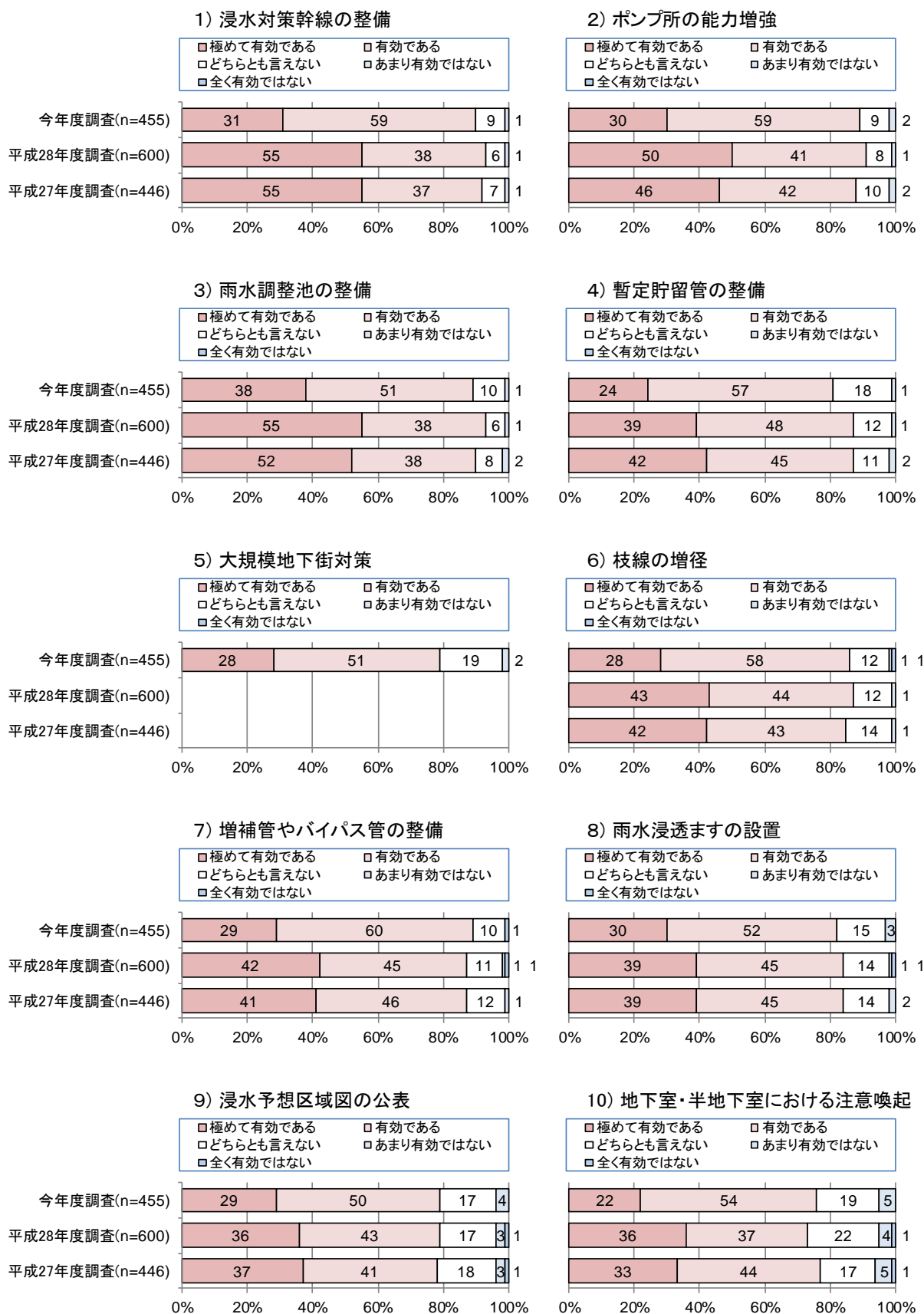
9) 浸水予想区域図の公表



10) 地下室・半地下室における注意喚起



図表 4－1－3－2 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価（経年比較）

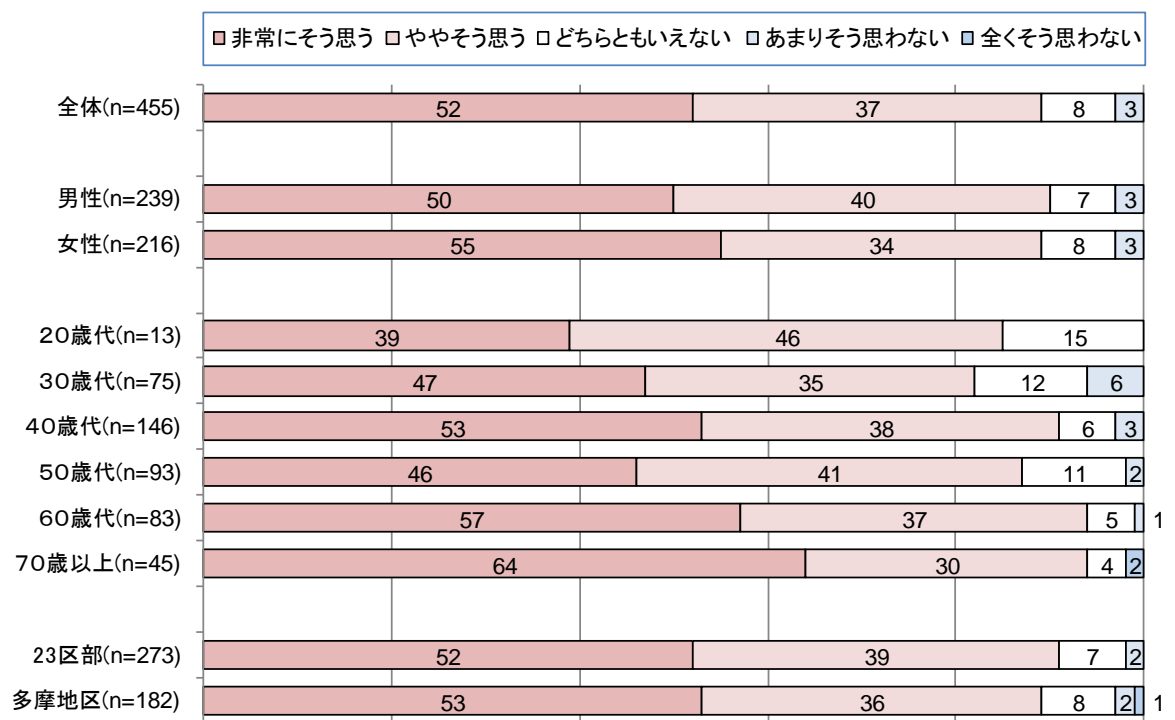


4.1.4 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見

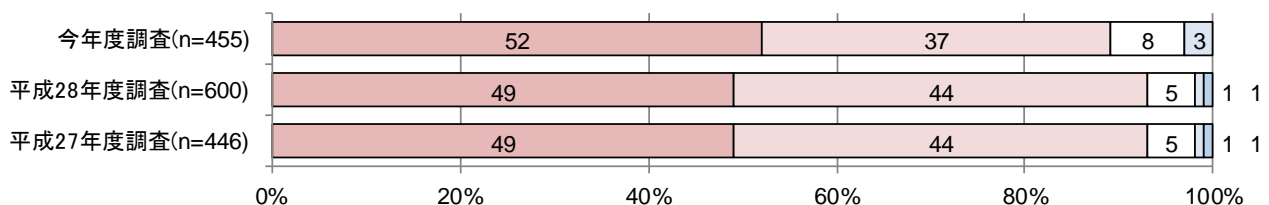
- ◆ 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見では、「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』が89%となった。
- ◆ 男女別にみると、『そう思う』では男性が90%、女性が89%となり、男女で大きな差はなかった。
- ◆ 年代別にみると、『そう思う』では60歳代と70歳以上がともに94%と最も高く、次いで40歳代が91%となった。一方、30歳代は82%と最も低い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、『そう思う』では23区部が91%、多摩地区が89%となり、地区の違いで大きな差はなかった。
- ◆ 経年比較でみると、『そう思う』では今年度は平成27年度、平成28年度調査より4ポイント減少していた。

Q 8 東京都下水道局では、区部全域で1時間50mmの降雨に対して浸水被害の解消を図る取組を行っていますが、東京都区部において、平成25年度に下表のような浸水被害が発生しています。
あなたは、浸水対策において、整備水準のレベルアップを含めた対応が必要だと思いますか？以下の
中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい。（単一回答）

図表4-1-4 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見



【経年比較】



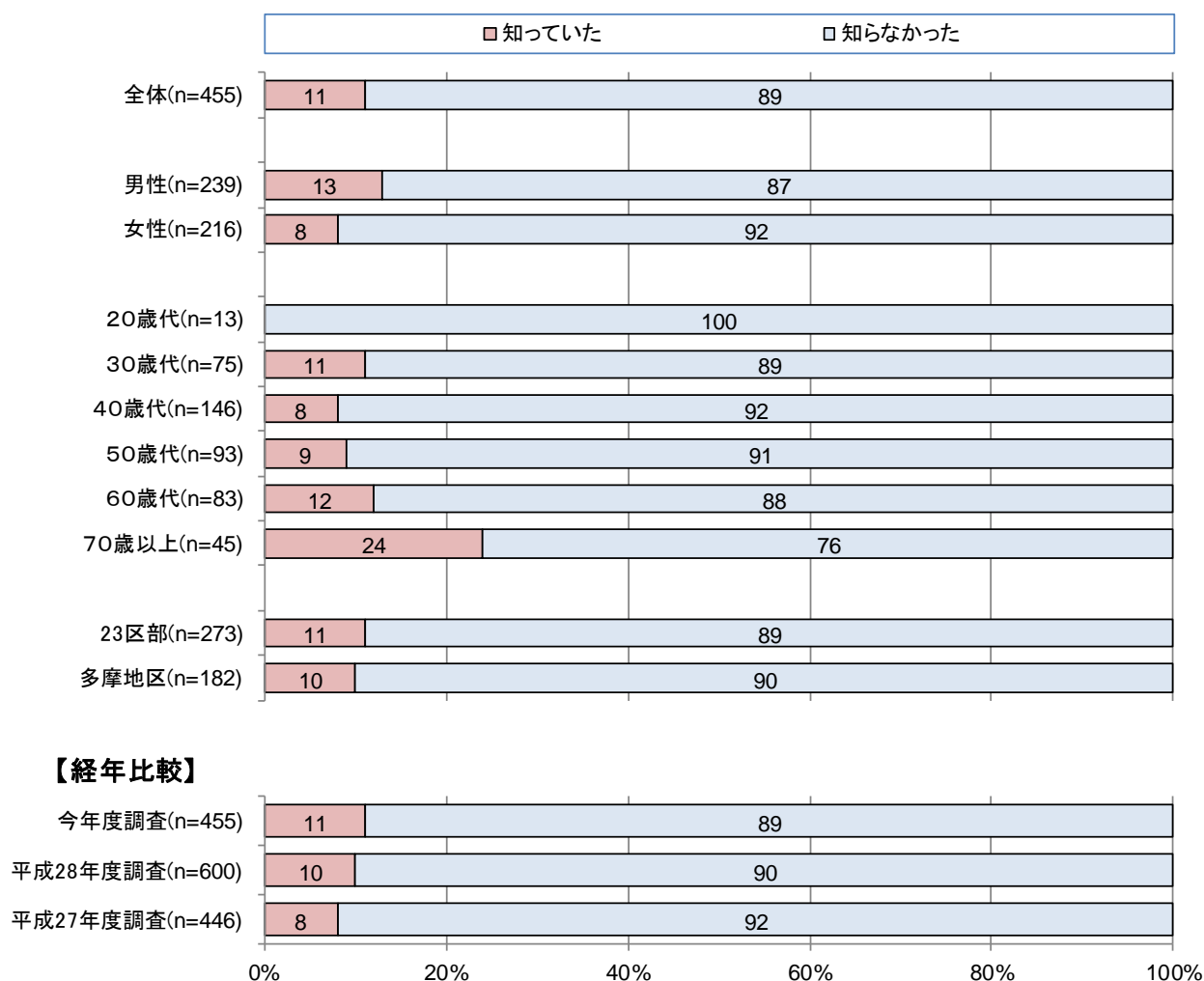
4.1.5 豪雨対策下水道緊急プランの認知度

- ◆ 豪雨対策下水道緊急プランの認知度について、「知っていた」が11%、「知らなかった」が89%となった。
- ◆ 男女別にみると、「知っていた」では男性が13%、女性が8%と、男性が女性より5ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「知っていた」では70歳以上が24%と最も高く、次いで60歳代が12%、30歳代が11%となった。
- ◆ 地区別にみると、「知っていた」では23区部が11%、多摩地区が10%となり、23区部と多摩地区で大きな差はなかった。
- ◆ 経年比較でみると、「知っていた」では若干の増加傾向が見られた。

Q 9 東京都下水道局では、平成 25 年の局地的集中豪雨や台風により、甚大な浸水被害が生じたことから、雨水整備水準のレベルアップを含む検討を進めてきました。平成 25 年 12 月、豪雨による浸水被害の軽減を目指して「豪雨対策下水道緊急プラン」を策定しました。

あなたは、このプランを知っていましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい。
(単一回答)

図表 4－1－5 豪雨対策下水道緊急プランの認知度



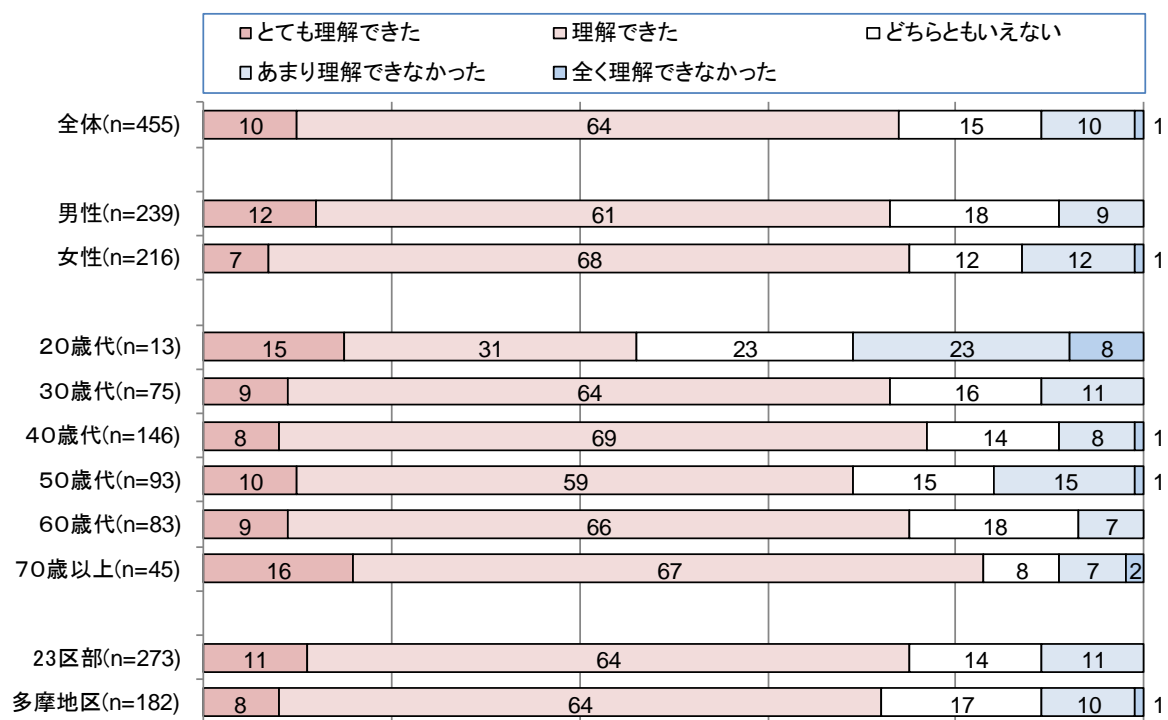
4.1.6 豪雨対策下水道緊急プランの理解度

- ◆ 豪雨対策下水道緊急プランの理解度について、「とても理解できた」と「理解できた」を合わせた『理解できた』が74%となった。
- ◆ 男女別にみると、『理解できた』では男性が73%、女性が75%となり、男女で大きな差はなかった。
- ◆ 年代別にみると、『理解できた』では70歳以上が83%と最も高く、次いで40歳代が77%、60歳代が75%となった。一方、20歳代は46%と最も低い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、『理解できた』では23区部が75%、多摩地区が72%と、23区部と多摩地区で大きな差はなかった。
- ◆ 経年比較でみると、『理解できた』では今年度は平成27年度調査より7ポイント、平成28年度調査より9ポイント減少していた。

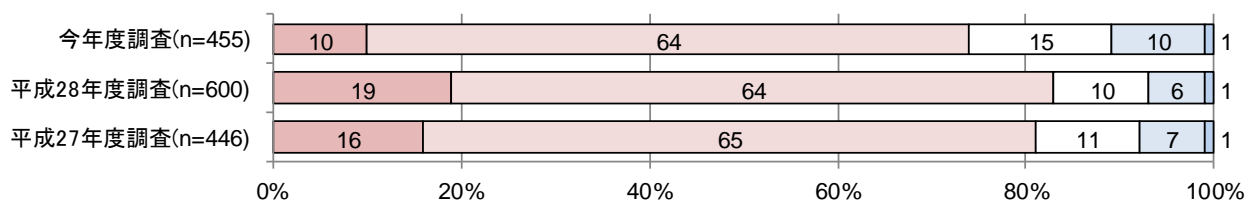
Q10-1 「豪雨対策下水道緊急プラン」について、概要版を示します。

あなたは、このプランを理解できましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい。（単一回答）

図表4-1-6 豪雨対策下水道緊急プランの理解度



【経年比較】

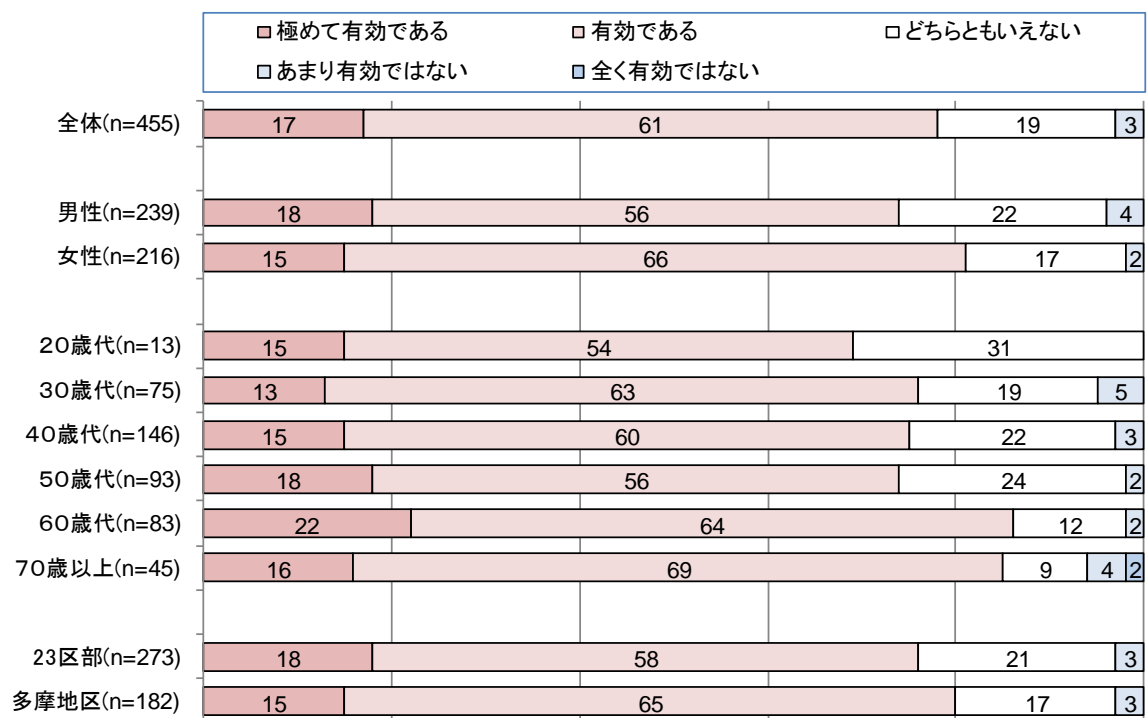


4.1.7 豪雨対策下水道緊急プランの期待度

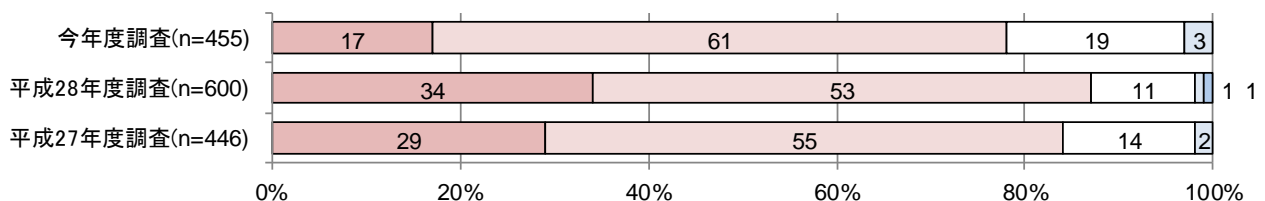
- ◆ 豪雨対策下水道緊急プランの期待度について、「極めて有効である」と「有効である」を合わせた『有効である』が78%となった。
- ◆ 男女別にみると、『有効である』では男性が74%、女性が81%と、女性が男性より7ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『有効である』では60歳代が86%と最も高く、次いで70歳以上が85%、30歳代が76%となった。
- ◆ 地区別にみると、『有効である』では23区部が76%、多摩地区が80%と、多摩地区が23区部より4ポイント高い結果となった。
- ◆ 経年比較でみると、『有効である』では今年度は平成27年度調査より6ポイント、平成28年度調査より9ポイント減少していた。

Q10-2 「豪雨対策下水道緊急プラン」の概要版をご覧いただいた結果、あなたの評価をお答えください。以下の中から該当する選択肢を一つだけお選びください。（単一回答）

図表4-1-7 豪雨対策下水道緊急プランの期待度



【経年比較】



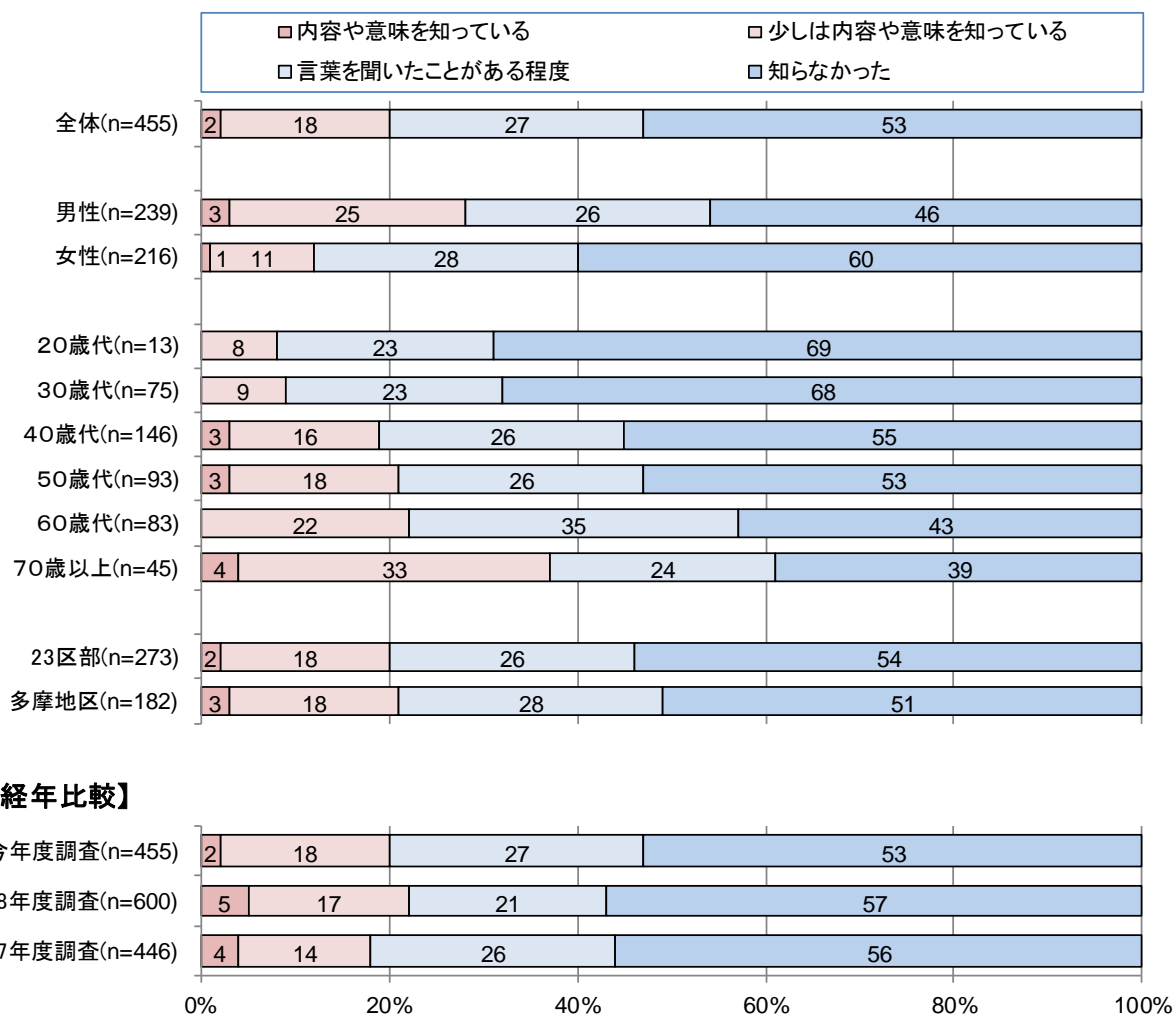
4.2 家庭での浸水への対策について

4.2.1 「浸水対策強化月間」の認知度

- ◆ 「浸水対策強化月間」の認知度について、「内容や意味を知っている」と「少しは内容や意味を知っている」、「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』が47%となっており、5割未満と低い結果となった。
- ◆ 男女別にみると、『認知度あり』では男性が54%、女性が40%と、男性が女性より14ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『認知度あり』では年齢が高くなるにつれ、割合も高くなっており、70歳代では61%と6割を超えた高い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、『認知度あり』では23区部が46%、多摩地区が49%と、多摩地区が23区部より3ポイント高い結果となった。
- ◆ 経年比較でみると、『認知度あり』では今年度は平成27年度調査より3ポイント、平成28年度調査より4ポイント増加していた。

Q11 あなたは、「浸水対策強化月間」についてどのくらいご存知ですか。以下の選択肢の中から該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

図表4-2-1 「浸水対策強化月間」の認知度



4.2.2 「浸水対策強化月間」の認知経路

- ◆ 「浸水対策強化月間」の認知経路について、「東京都下水道局のホームページ」が 48%と最も高く、次いで「東京都や東京都下水道局の広報誌」が 47%となった。
- ◆ 男女別にみると、「東京都下水道局のホームページ」では男性が 54%、女性が 41%と、男性が女性より 13 ポイント高く、「東京都や東京都下水道局の広報誌」では男性が 45%、女性が 51%と、女性が男性より 6 ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「東京都下水道局のホームページ」では 40 歳代が 58%と最も高く、「東京都や東京都下水道局の広報誌」では 70 歳以上が 68%と最も高くなった。
- ◆ 地区別にみると、「東京都下水道局のホームページ」では 23 区部が 49%、多摩地区が 48%、「東京都や東京都下水道局の広報誌」では 23 区部が 48%、多摩地区が 47%となり、地区の違いで大きな差はなかった。
- ◆ 経年比較でみると、「東京都や東京都下水道局の広報誌」では今年度は平成 28 年度調査より 17 ポイント減少しており、「東京都下水道局のホームページ」と「ポスター」では平成 28 年度調査よりそれぞれ 11 ポイント、7 ポイント増加していた。

Q 1 2 上記 Q 1 1 で、「1～3」を選択された方におたずねします。

「浸水対策強化月間」をどこで知りましたか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつかお答え下さい。（複数回答）

図表 4－2－2 「浸水対策強化月間」の認知経路

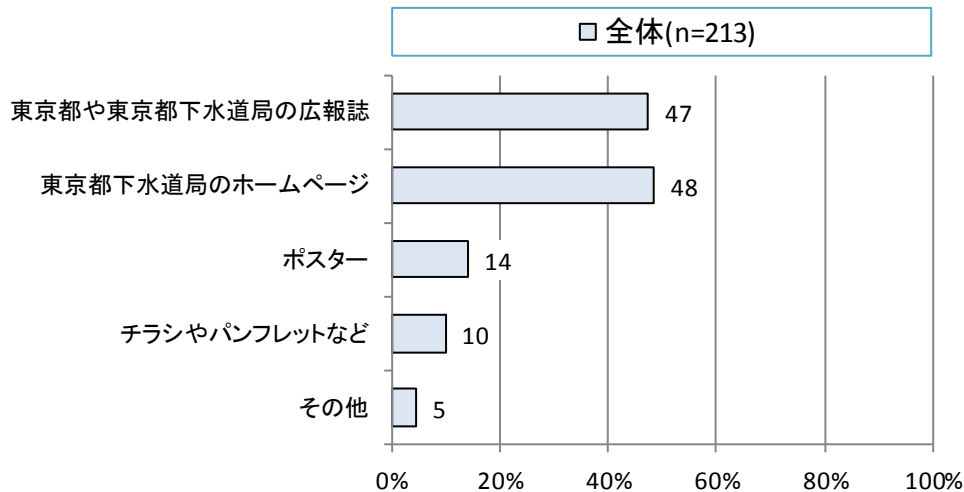
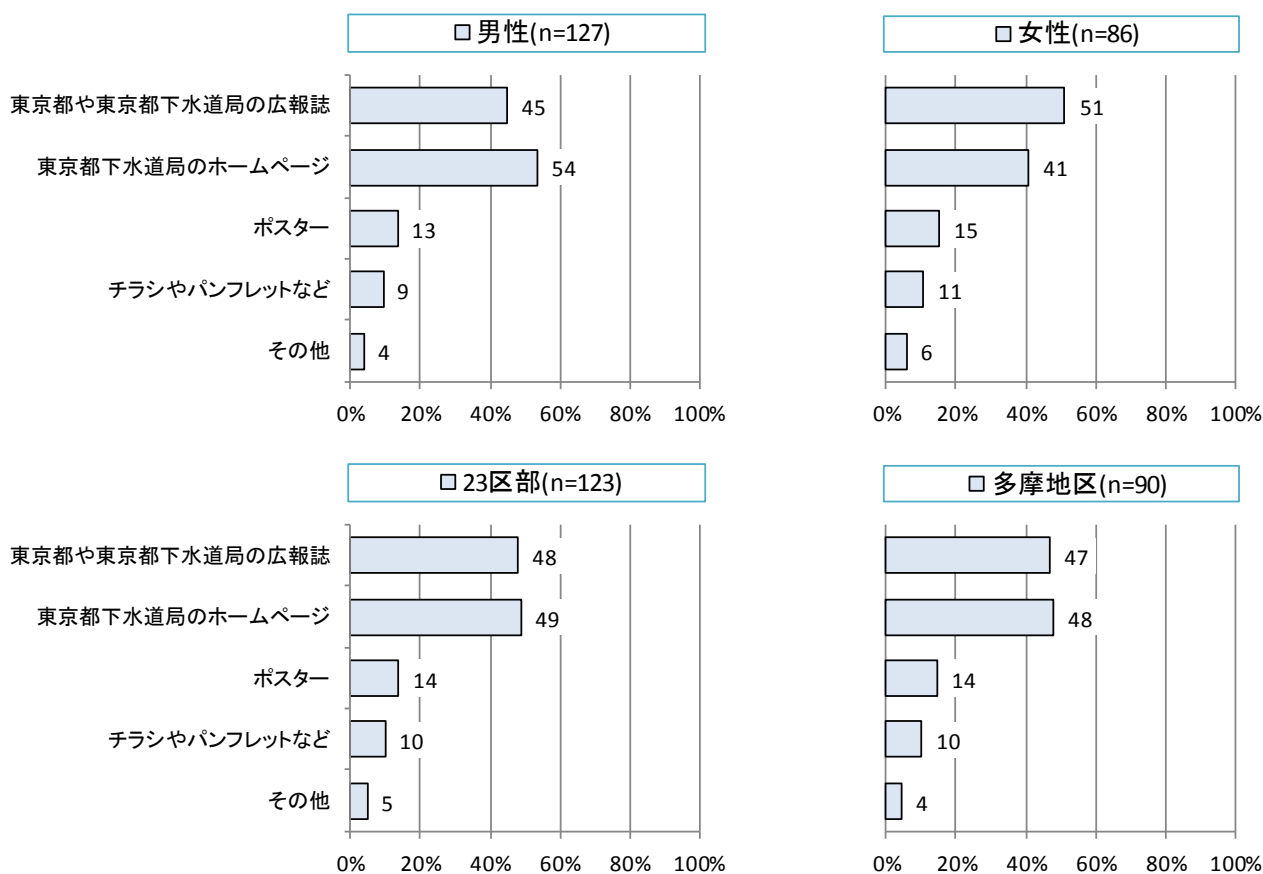


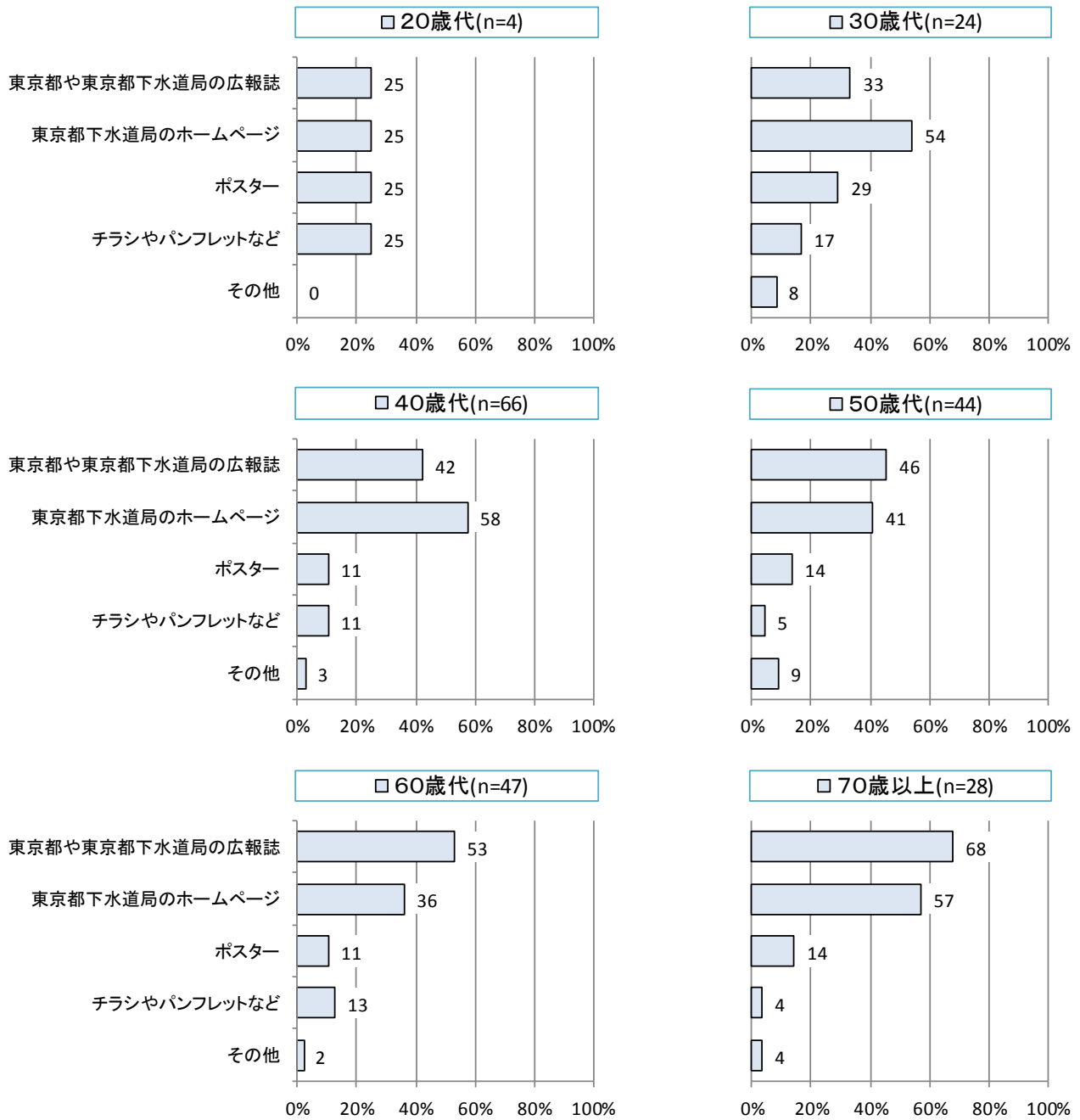
表 4－2－2 「浸水対策強化月間」の認知経路（その他）

| No | その他(内容) | 件数 |
|----|--------------|----|
| 1 | 東京アメッシュ | 2 |
| 2 | 先日の下水道展で | 1 |
| 3 | なんとなく聞いた気がする | 1 |
| 4 | テレビ番組で | 1 |
| 5 | 虹の下水道館 | 1 |
| 6 | その他/無回答 | 4 |
| 計 | | 10 |

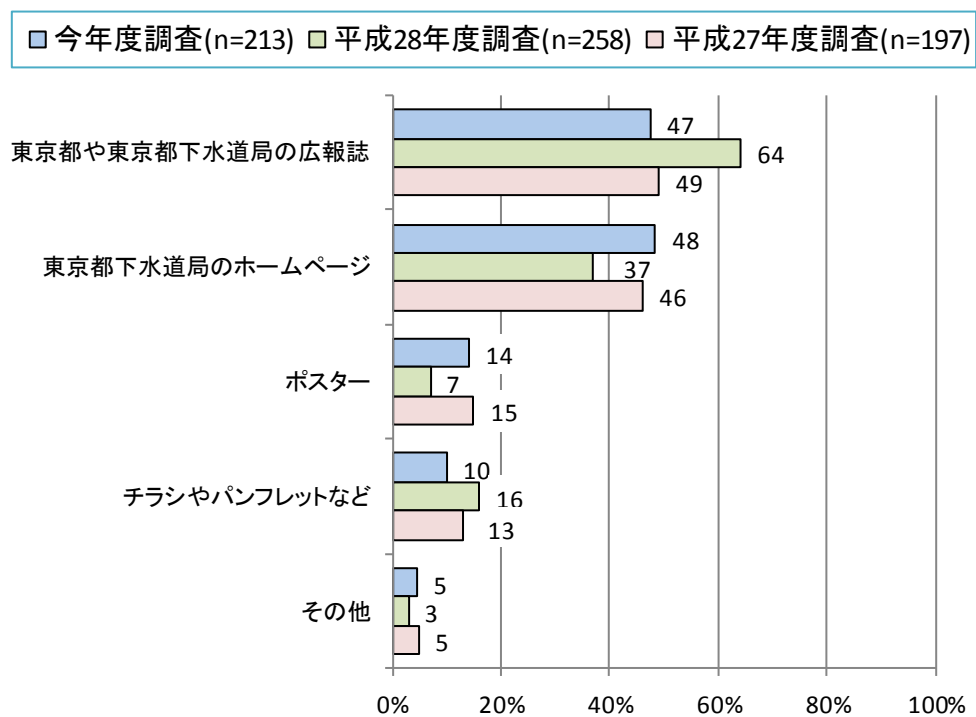
図表 4－2－2－1 「浸水対策強化月間」の認知経路（性別・地区別）



図表 4－2－2－2 「浸水対策強化月間」の認知経路（年齢別）



図表 4－2－2－3 「浸水対策強化月間」の認知経路（経年比較）



4.2.3 家庭での浸水対策について

- ◆ 家庭での浸水対策について、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」が 39%と最も多く、次いで「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が 34%、「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」が 25%となっている。一方、「この中でやっているものはない」は 30%となった。
- ◆ 男女別にみると、男女で大きな差は見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」は 40 歳代が 45%、「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」は 60 歳代が 46%、「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」は 70 歳以上が 36%とそれぞれ最も高い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、全体的に地区の違いによる大きな差は見られなかったが、「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」では 23 区部が 22%、多摩地区が 30%と、多摩地区が 23 区部より 8 ポイント高い結果となった。
- ◆ 経年比較でみると、「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」と「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」は平成 27 年度調査以降減少傾向となった。

Q 1 3 次に「浸水への備え」についておうかがいします。

次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～5」については該当するものをいくつでもお答え下さい。（複数回答） 「1～5」で該当するものがない場合は、「6」をお選びください。

図表 4－2－3 家庭での浸水対策について

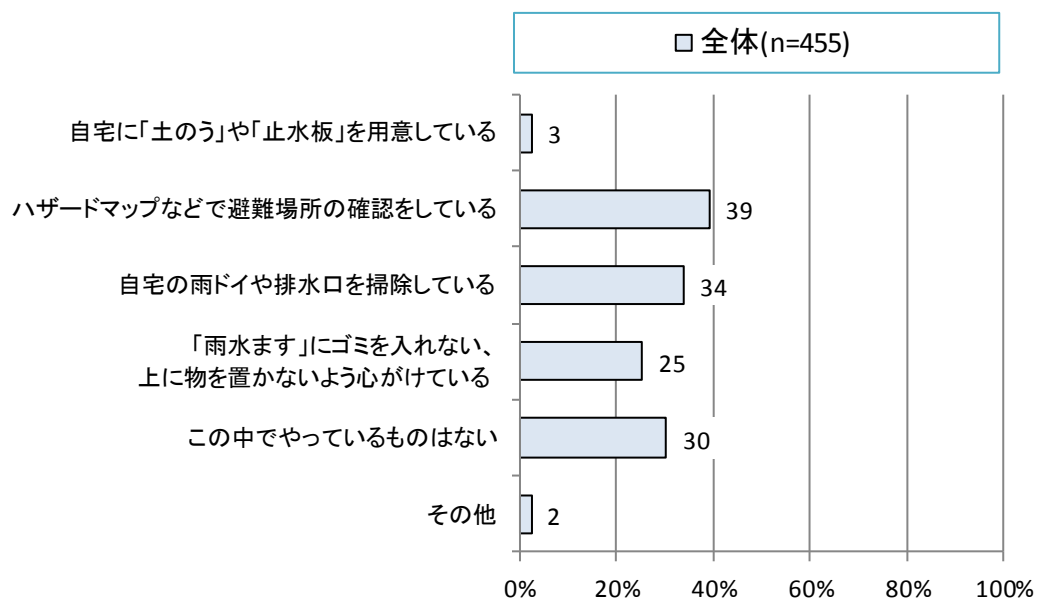
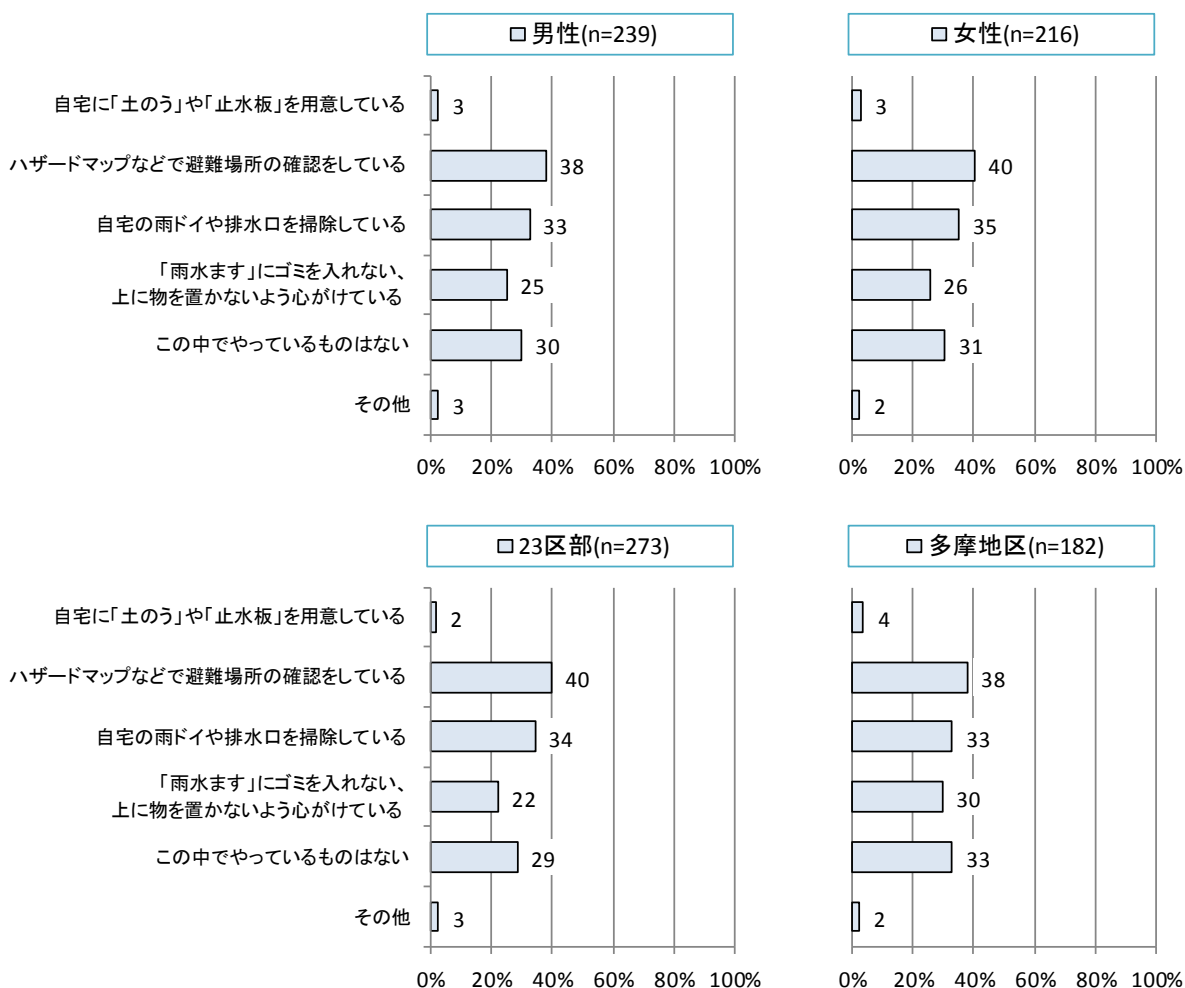


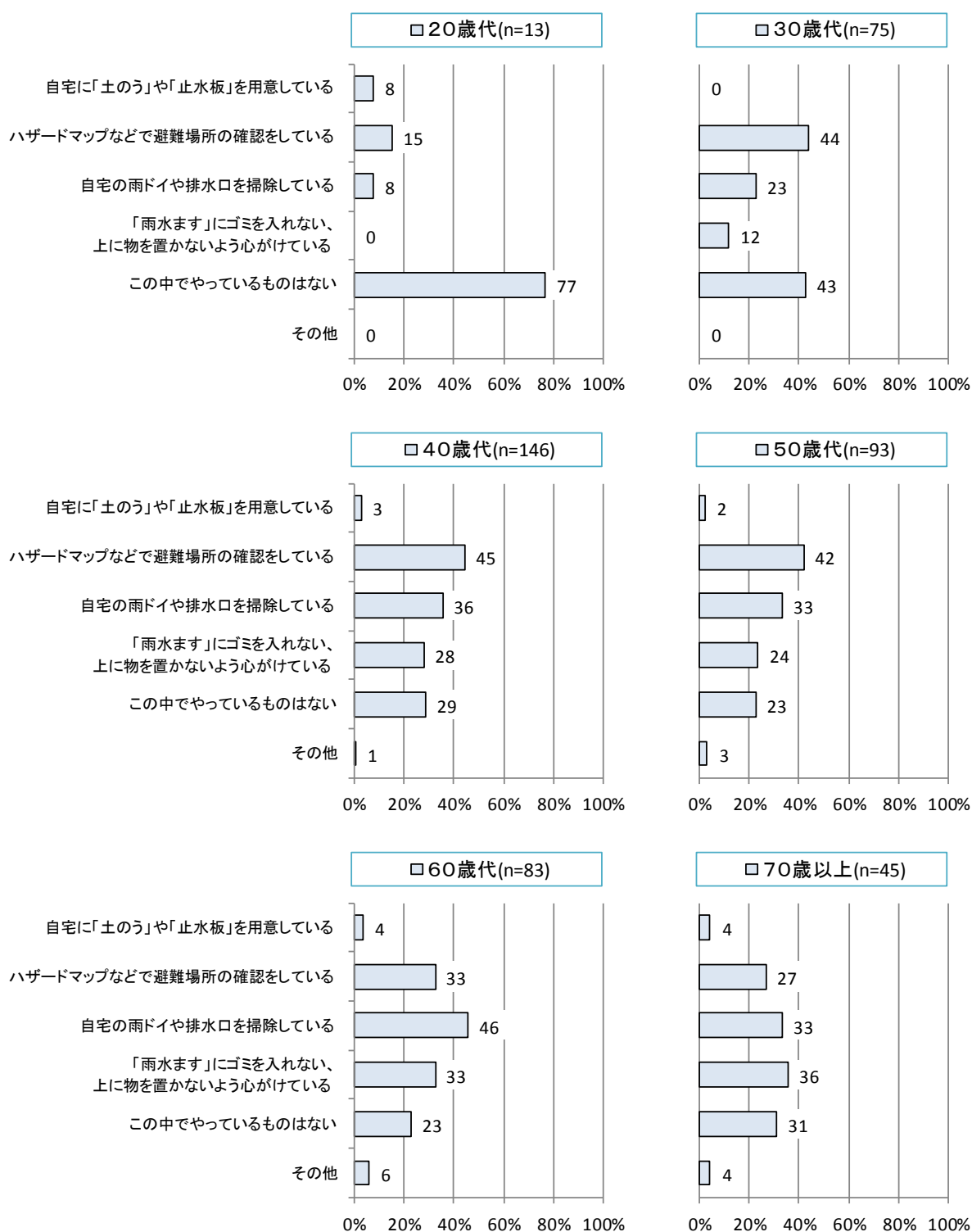
表 4－2 家庭での浸水対策について（その他）

| No | その他(内容) | 件数 |
|----|--|----|
| 1 | 3階以上の階に居住しているため、考えない、管理会社に任せている | 3 |
| 2 | 自宅近くの実家のエントランスが半地下になっており、以前の豪雨で浸水しました。その経験から止水板、土のうは備えてます。 | 1 |
| 3 | 水嚢を用意した | 1 |
| 4 | 日ごろから低い土地を覚えておくようにしています | 1 |
| 5 | その他/無回答 | 5 |
| 計 | | 11 |

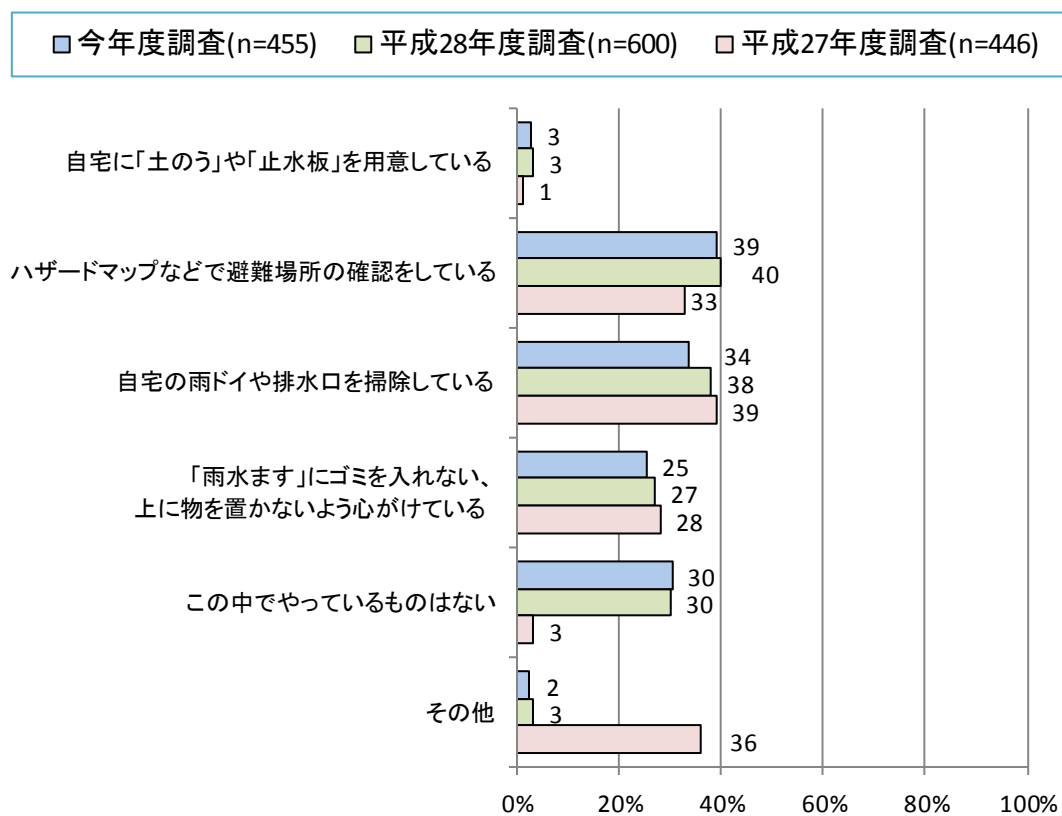
図表 4－2－3－1 家庭での浸水対策について（性別・地区別）



図表 4－2－3－2 家庭での浸水対策について（年代別）



図表 4－2－3－3 家庭での浸水対策について（経年比較）

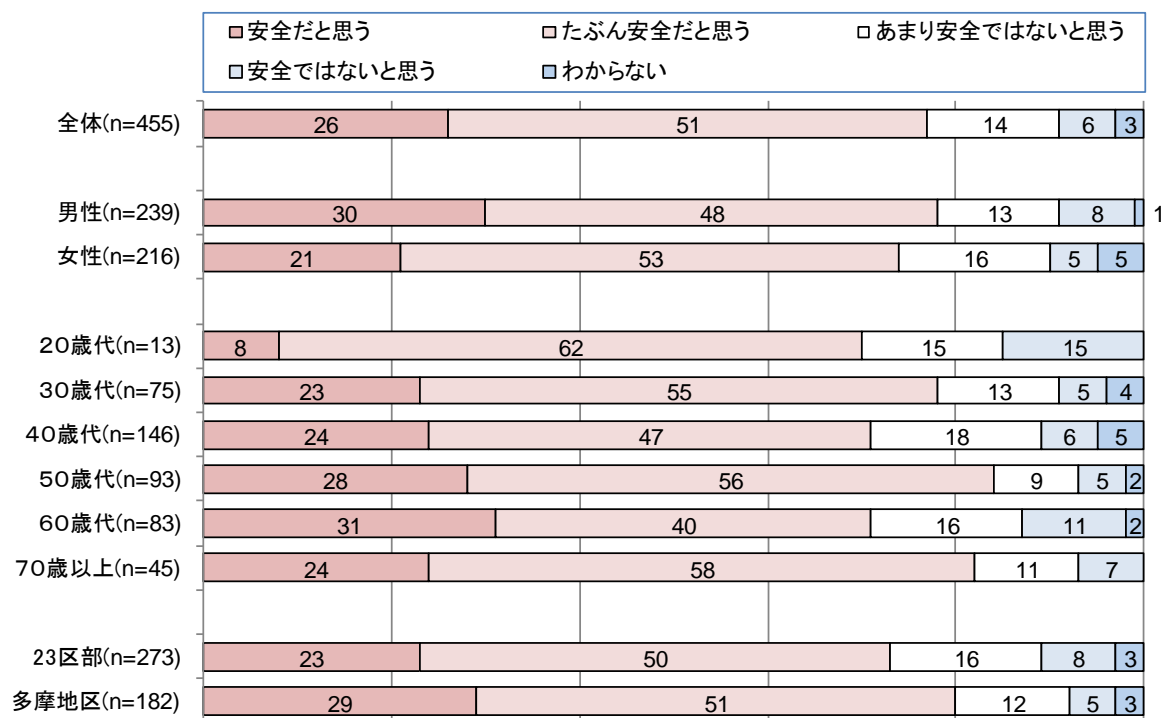


4.2.4 家庭での浸水対策の安全性

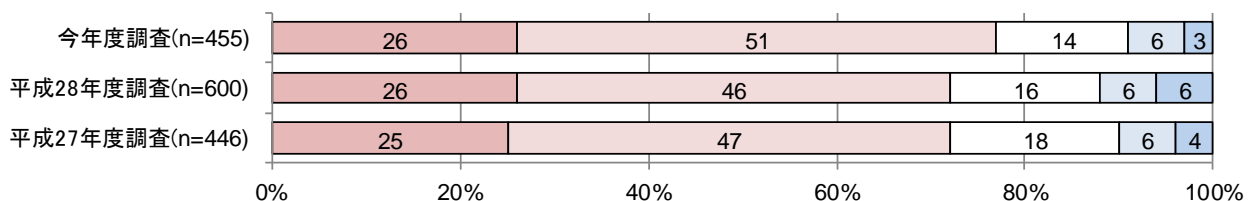
- ◆ 家庭での浸水対策の安全性について、「安全だと思う」と「たぶん安全だと思う」を合わせた『安全だと思う』が77%となった。
- ◆ 男女別にみると、『安全だと思う』では男性が78%、女性が74%と、男性が女性より4ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『安全だと思う』では50歳代が84%と最も高く、次いで70歳以上が82%、30歳代が78%となった。
- ◆ 地区別にみると、『安全だと思う』では23区が73%、多摩地区が80%と、多摩地区が23区部より7ポイント高い結果となった。
- ◆ 経年比較でみると、『安全だと思う』では今年度は平成27年度と平成28年度調査より5ポイント増加している。

Q14 あなたのお宅は、大雨による浸水に対して安全だと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

図表4-2-4 家庭での浸水対策の安全性



【経年比較】

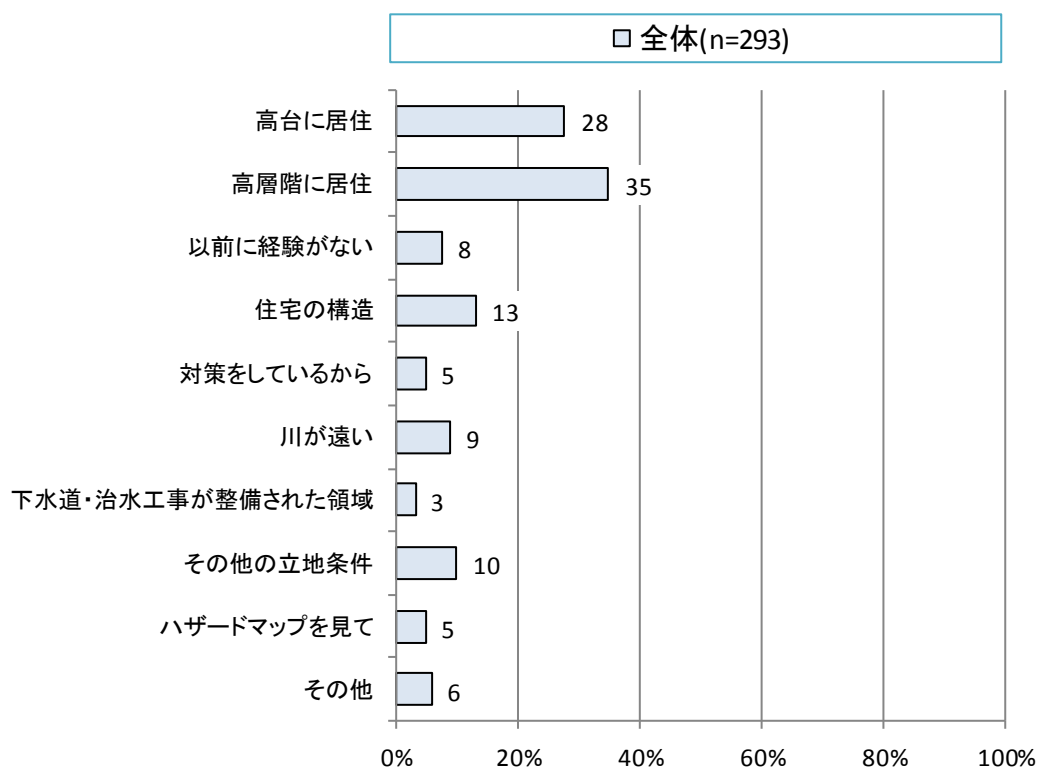


4.2.5 家庭での浸水対策の安全性に対する理由

- ◆ 家庭での浸水対策の安全性に対する理由について、【安全だと思う、たぶん安全だと思う】では、「高層階に居住」が35%と最も高く、次いで「高台に居住」が28%となった。
- ◆ 【あまり安全ではないと思う、安全ではないと思う】では、「低層に居住・建物の構造」が25%と最も高く、次いで「以前に経験あり」が24%、「川が近い」が20%となった。

Q15 上記Q14で、大雨による浸水に対する安全について、あなたがそのようにお答えになった理由を教えてください。（自由回答）

図表4-2-5-1 家庭での浸水対策の安全性に対する理由
（安全だと思う、たぶん安全だと思う）



【家庭での浸水対策の安全性に対する理由】

(安全だと思う、たぶん安全だと思う)

➤ 高台に居住

- ◇ 自宅が高台にあるから。この土地を購入するときに、河川との位置関係を十分調べたつもりである。
(60 歳代男性・23 区)
- ◇ わりと高台にマンションがあり今まで大雨でも問題なかったから。 (50 歳代女性・23 区)
- ◇ 近くの河川から離れており、また比較的海抜が高い所である為。 (40 歳代男性・多摩地区)

➤ 高層階に居住

- ◇ 賃貸の二階に住んでいるから。 (30 歳代女性・23 区)
- ◇ マンションの上層階であり、近隣も大雨で浸水したことが無いため。 (40 歳代女性・多摩地区)
- ◇ 現在高層マンションの上階に住んでおり、自宅は大丈夫と思う。玄関も周りよりかなり高くなっている。 (70 歳以上男性・23 区)

➤ 以前に経験がない

- ◇ 過去に浸水した経験がないので、多分安心できるのではないかとと思っている。
(70 歳以上男性・23 区)
- ◇ 今の土地には先祖代々住んでいるが、浸水被害は今まで全くあったことがないため。
(50 歳代女性・23 区)
- ◇ これまで何十年も住んできての経験と、近年の豪雨によっても大きな変化が見られないから。また、地盤や中小の河川が大きな河川へ注ぎ込む環境や大きな河川が比較的安定しているように感じられるため。 (50 歳代男性・多摩地区)

➤ 住宅の構造

- ◇ マンションに住んでいる。免震マンションの為、エントランス自体も少し高い位置にある。
(20 歳代女性・多摩地区)
- ◇ 玄関前の道路が下り坂なので、雨が流れると思うから。 (50 歳代女性・多摩地区)
- ◇ 道路面と玄関入口面に 20 cm 程度の高低差がある。また、道路側には下水管があり、昨年下水管のメンテナンスをするのを少し見ていたからです。 (60 歳代男性・多摩地区)

➤ 対策をしているから

- ◇ 10 年ほど前に近くの妙正寺川が氾濫し、浸水した家や水が引いた後の悲惨さも間近に見ている。よって、自分でできる集中豪雨への心構えは行っている。地震水害雷は怖い。
(60 歳代男性・23 区)
- ◇ 自宅周りの雨水枡の清掃や、土のうを準備しているから。 (40 歳代女性・多摩地区)
- ◇ 川というか、水路がすぐとなりにある戸建てなので少し高い位置に建てており、雨というか水対策を考えた上で建てた家であるため。また、最近あまりにも豪雨が多いため、頻繁に水路の掃除をし、家のまわりの側溝も掃除しているから。 (30 歳代女性・多摩地区)

➤ 川が遠い

- ◇ 低い土地に家がないのと、近くに川がないので、それほど心配はしていません。
(40 歳代女性・23 区)
- ◇ 近くに川がない。周りに比べて低地でない。(50 歳代女性・23 区)
- ◇ マンションに住んでいます。川の近くではないので、大きな被害はないかと思いますが、大雨により一時的な被害があるかもしれません。マンション管理人から大雨の時に注意することなどのポスターを見ながら、自分でできることを行っています。(40 歳代男性・多摩地区)

➤ 下水道・治水工事が整備された領域

- ◇ 目の前の道路（永代通り）の地下に装置があるから。(50 歳代男性・23 区)
- ◇ 川は近いが護岸工事が適切にされているので。(50 歳代女性・23 区)
- ◇ 近くに川があっても、水量が少ないから。大雨が降った場合は、調節池があるから。大雨が降っても調節池に水が入っているところを見たことがないから。(50 歳代女性・多摩地区)

➤ その他の立地条件

- ◇ 丘陵地の為、雨水がたまり、床下浸水などになることはないため。(30 歳代女性・多摩地区)
- ◇ 過去に浸水した高さよりも住んでいる家が高いところにあるので。(20 歳代女性・23 区)
- ◇ 坂の途中くらいに家があり、水は溜まらないと考えるため。(30 歳代男性・23 区)

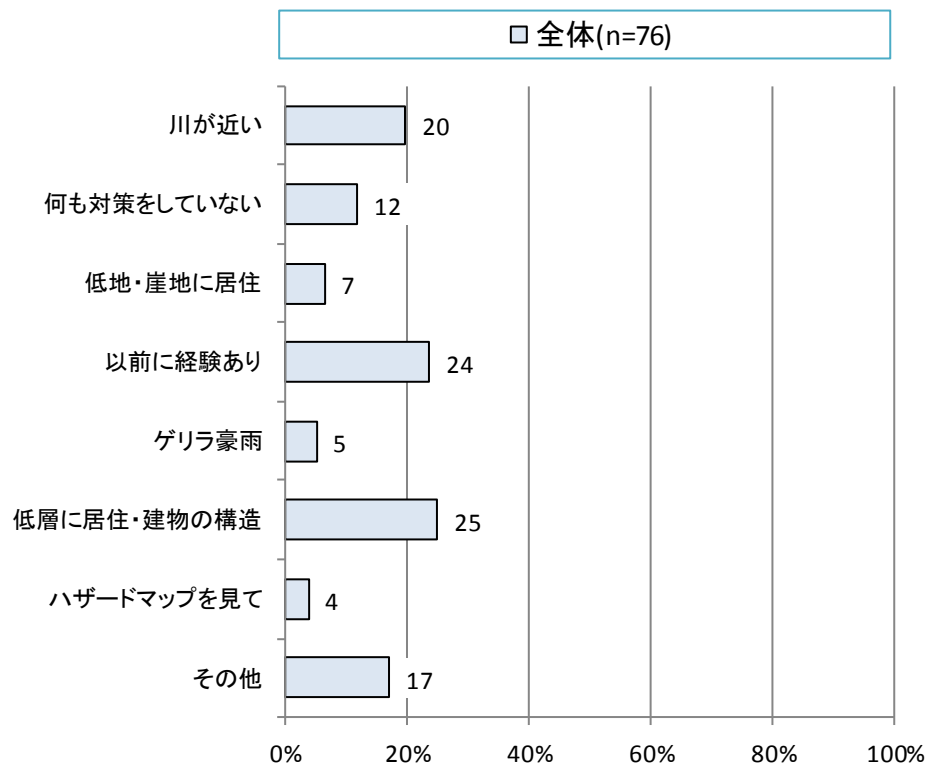
➤ ハザードマップを見て

- ◇ 浸水危険マップで、ぎりぎり外れている。(40 歳代男性・23 区)
- ◇ ハザードマップを見る限りは浸水の被害が無い為。(30 歳代男性・多摩地区)
- ◇ ハザードマップを参照しているため。とはいえ、集中豪雨などには対応できるかは不安に思っている。(40 歳代女性・23 区)

➤ その他

- ◇ 市役所の土木課に聞いた。(50 歳代男性・多摩地区)
- ◇ 日頃から意識していて、近所の人とも話をしているので。(50 歳代男性・23 区)
- ◇ 大雨で浸水する場所に看板があると安心のような気がします。車で通る時に目に入れば、雨の時にそこを通らない方法を考えられるかもしれません。(40 歳代女性・多摩地区)

図表 4－2－5－2 家庭での浸水対策の安全性に対する理由
(あまり安全ではないと思う、安全ではないと思う)



【家庭での浸水対策の安全性に対する理由】
(あまり安全ではないと思う、安全ではないと思う)

➤ 川が近い

- ◇ 多摩川の近く住んでいるのですが、大きな台風が来ると危険水域を超えることが度々あり、その度に怖い思いをしているので。 (40 歳代女性・多摩地区)
- ◇ 目の前に川があるから。 (30 歳代男性・23 区)
- ◇ 自宅近くに、川があるので、川が氾濫した場合を考えるとあまり安全ではないと思うから。 (50 歳代女性・23 区)

➤ 何も対策をしていない

- ◇ 対策を取っていないし、下町だから危険。 (30 歳代男性・23 区)
- ◇ 事前に準備が出来ていないため。 (30 歳代男性・多摩地区)
- ◇ 何か対策を取っている訳ではないため。 (40 歳代女性・23 区)

- 低地・崖地に居住
 - ◇ 堤防の決壊が怖い。 （70 歳以上男性・多摩地区）
 - ◇ 家が坂の下部に位置しており、大雨時には雨水の流れが悪くなるため。 （60 歳代男性・23 区）
 - ◇ 低地に住んでおり、荒川堤防の決壊時には 3 m の浸水予測が出ているため。戸建の家ですが、2 階まで水没する恐れあり。 （50 歳代男性・23 区）
- 以前に経験あり
 - ◇ 大雨により雨水ますにごみがたまりやすく、以前にたまったごみを大雨の時に取り除くことが大変で、困難なことがあった（膝上まで水が来ていた）ため。大雨が降ると又そうなるのではと怖くなることがあります。 （70 歳以上女性・23 区）
 - ◇ 前面道路に排水溝がなく、大雨でなくても道路に水が溜まるので、雨の量が多いと心配。 （40 歳代女性・多摩地区）
 - ◇ 大雨が降ると、マンション一階の通路の一部に雨水があふれる時がありますが、それがマンションの排水があふれたものなのか、道路に埋まっている配水管から逆流したものかが確認出来ていません。 （50 歳代男性・23 区）
- ゲリラ豪雨
 - ◇ 最近ゲリラ豪雨等があるから。 （20 歳代男性・23 区）
 - ◇ 河川に近いところに住んでいて、ゲリラ豪雨ですぐ危険水位に達することがある。その危険度が年々厳しくなっているように思う。治水対策のさらなる補強がほしい。 （60 歳代男性・23 区）
 - ◇ ゲリラ豪雨の時、かなりベランダに水が貯まったため。 （30 歳代女性・多摩地区）
- 低層に居住・建物の構造
 - ◇ マンションで一階でもあるため、ベランダに多くの雨が降れば、浸水も考えられるから。 （30 歳代女性・23 区）
 - ◇ 自宅周辺が盛土でできているから。 （20 歳代男性・多摩地区）
 - ◇ 足立区でマンション 1 階在住。浸水被害予想マップを見たところ、三メートルほど浸水被害があると。 （40 歳代女性・23 区）
- ハザードマップを見て
 - ◇ ハザードマップで私の住まいは荒川が決壊した場合、5 メートルほど浸水する可能性があると言われていたことから、大雨による浸水にもかなりの危険があると感じているので。 （40 歳代男性・23 区）
 - ◇ ハザードマップで見ると 2 メートルの浸水が予想されている。 （60 歳代女性・多摩地区）
 - ◇ 武蔵野市ハザードマップ上、浸水の可能性がある。 （40 歳代男性・多摩地区）
- その他
 - ◇ 住んでいる地域が、河川の氾濫で浸水地域になると知っているため。 （40 歳代女性・23 区）
 - ◇ 降水量によっては、浸水があり得ると思うから。 （40 歳代女性・23 区）
 - ◇ 高台に家があるので、浸水とは無縁だが、一定量の豪雨に地盤が支え切れるか心配になる。特に、豪雨時に道路脇の薄い排水を見ると、土地が吸収できる限界を超えていると感じる場面がある。 （40 歳代男性・多摩地区）

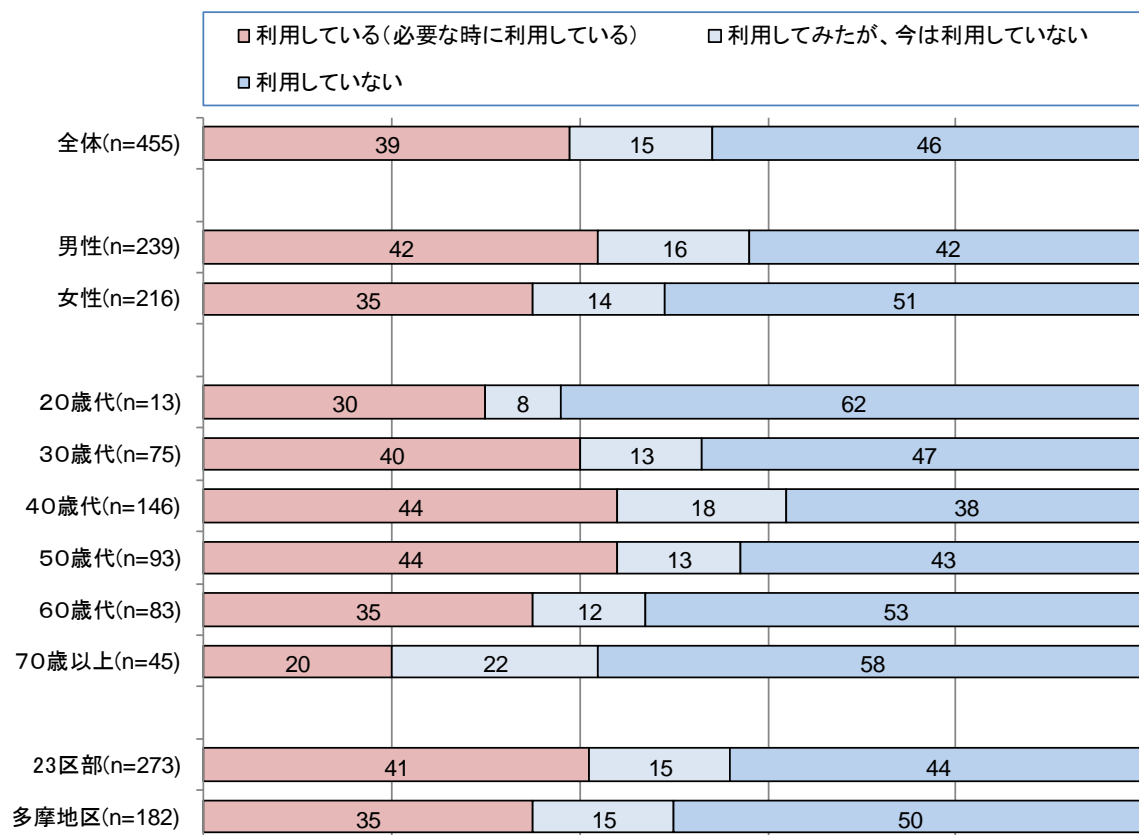
4.3 東京アメッシュについて

4.3.1 東京アメッシュの利用の有無

- ◆ 東京アメッシュの利用の有無について、『利用している』が39%、「利用してみたが、今は利用していない」と「利用していない」を合わせた『利用していない』が61%となった。
- ◆ 男女別にみると、『利用している』では男性が42%、女性が35%と、男性が女性より7ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、『利用している』では40歳代と50歳代でともに44%と最も多くなっており、次いで30歳代が40%、60歳代が35%となった。
- ◆ 地区別にみると、『利用している』では23区部が41%、多摩地区が35%となり、23区部が多摩地区より6ポイント高い結果となかった。

Q16 あなたは、「東京アメッシュ」について、ご利用になりましたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

図表4-3-1-1 東京アメッシュの利用の有無



4.3.2 東京アメッシュの利用方法

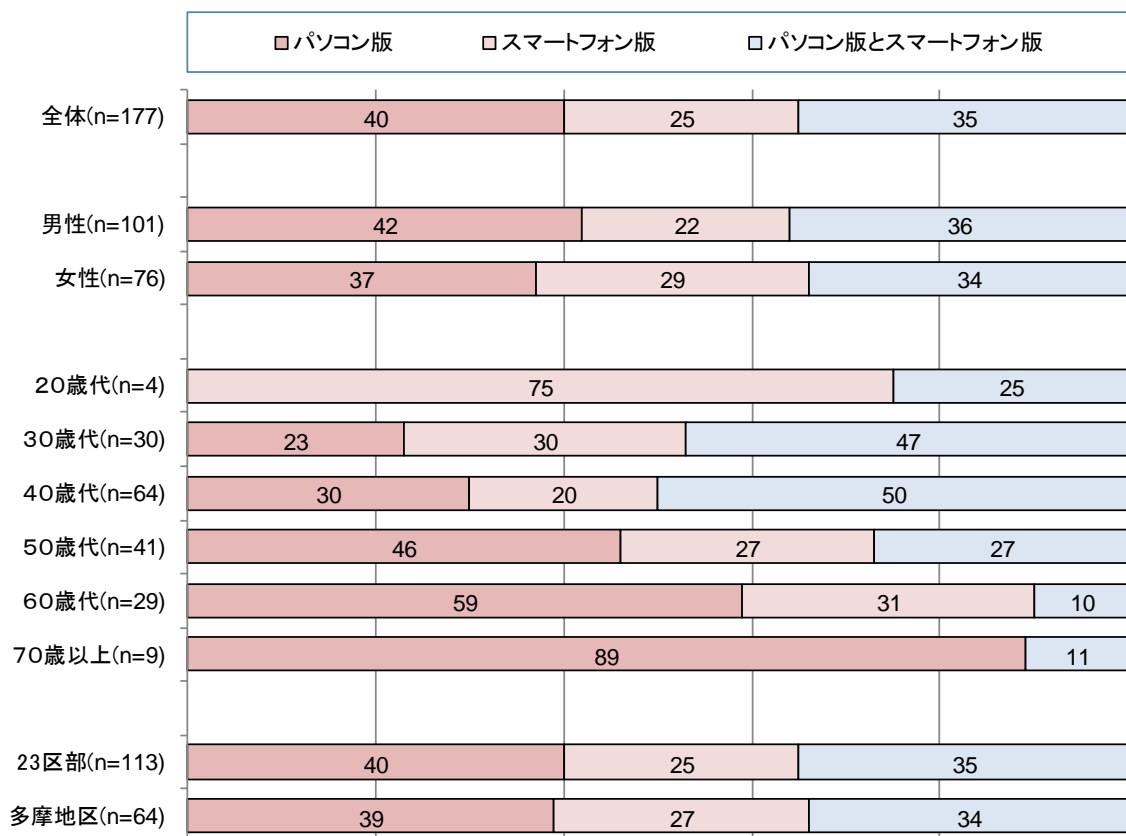
- ◆ 東京アメッシュの利用方法について、「パソコン版」が40%、「スマートフォン版」が25%、「パソコン版とスマートフォン版」が35%となった。
- ◆ 男女別にみると、「パソコン版」では男性が42%、女性が37%、「パソコン版とスマートフォン版」では男性が36%、女性が34%と、男性が女性よりそれぞれ5ポイント、2ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「スマートフォン版」では60歳代が31%と最も高く、次いで30歳代が30%、50歳代が27%となった。（※20歳代・70歳以上を除く）
- ◆ 地区別にみると、「スマートフォン版」では23区部が25%、多摩地区が27%と、多摩地区と23区部で大きな差は見られなかった。

Q17-1 上記Q16で、「1」を選択した人におたずねします。

あなたは、「東京アメッシュ」について、パソコン版、又は、スマートフォン版のどちらをご利用になりましたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。

（単一回答）

図表4-3-2 東京アメッシュの利用方法



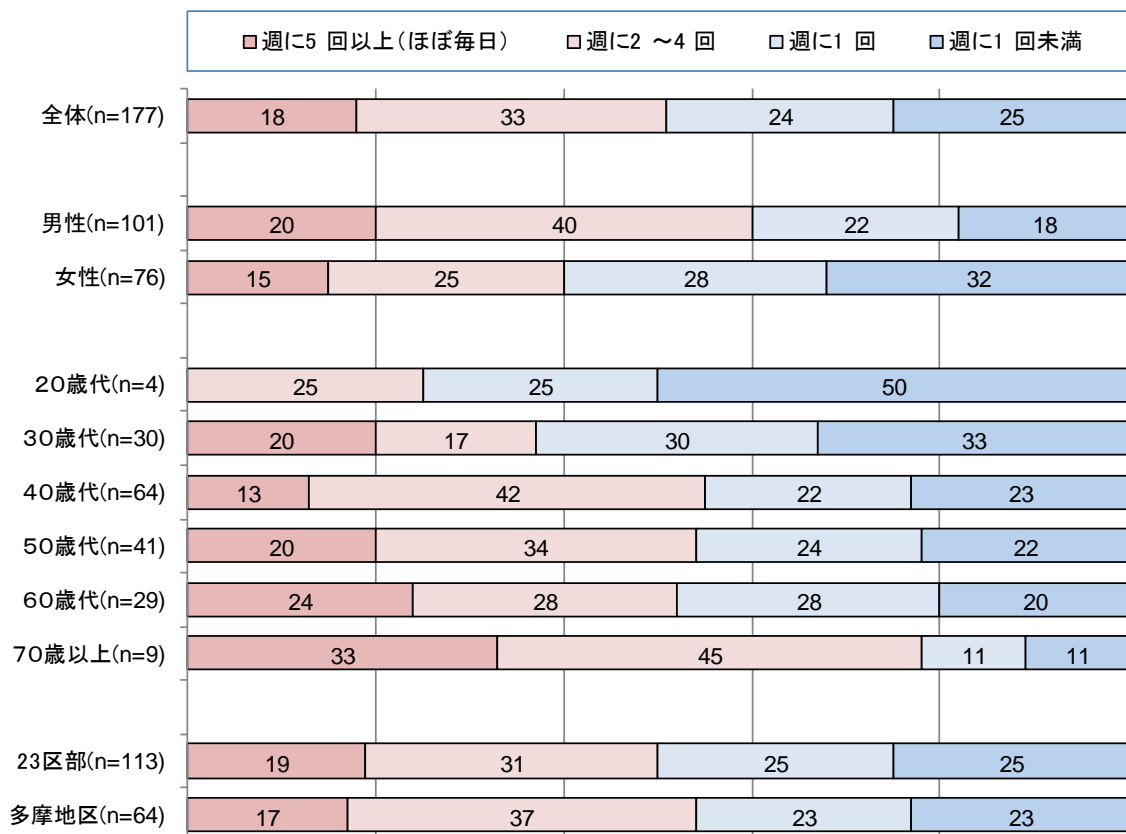
4.3.3 東京アメッシュの利用頻度

- ◆ 東京アメッシュの利用頻度について、「週に2～4回」が33%と最も高く、次いで「週に1回未満」が25%、「週に1回」が24%、「週に5回以上（ほぼ毎日）」が18%となった。
- ◆ 男女別にみると、「週に2～4回」では男性が40%、女性が25%と、男性が女性より15ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「週に2～4回」では40歳代が42%と最も高く、次いで50歳代が34%となった。一方、30歳代では17%と最も低い結果となった。（※20歳代・70歳以上を除く）
- ◆ 地区別にみると、「週に2～4回」では23区部が31%、多摩地区が37%となり、多摩地区が23区部より6ポイント高い結果となった。

Q17-2 上記Q16で、「1」を選択した人におたずねします。

あなたは、「東京アメッシュ」をどのぐらいの頻度で、利用されていますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

図表4-3-3 東京アメッシュの利用頻度



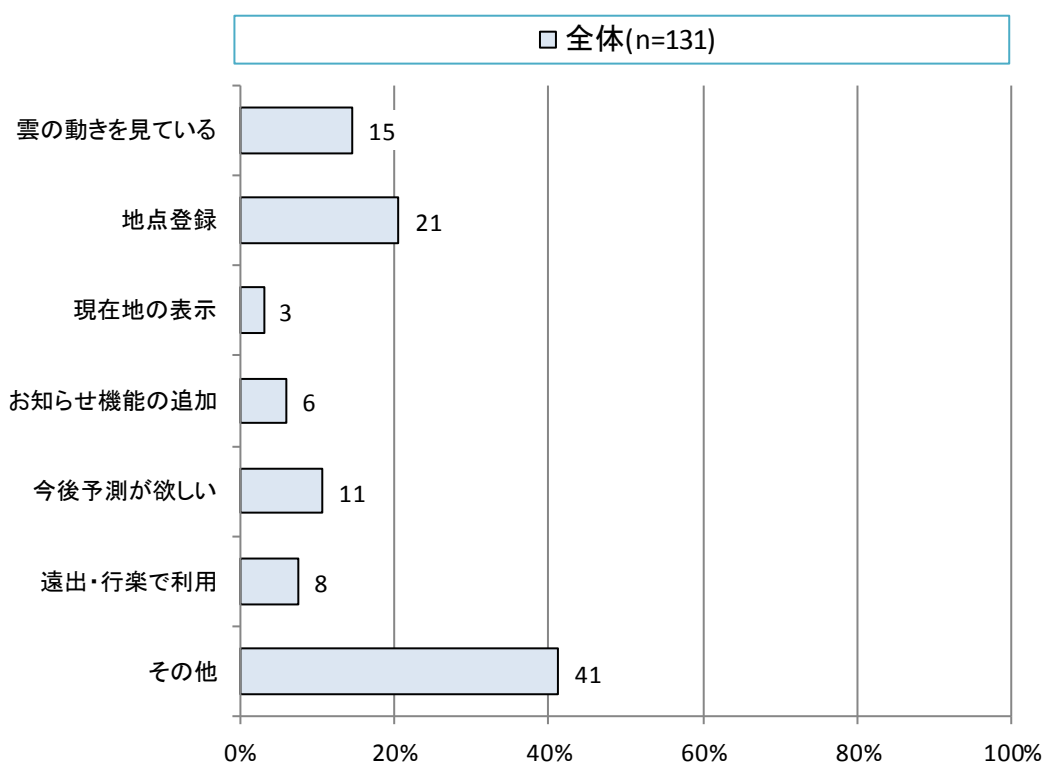
4.3.4 東京アメッシュのGPS活用アイデア

- ◆ 東京アメッシュのGPS活用アイデアについて、「地点登録」が21%と最も多く、次いで、「雲の動きを見ている」が15%となった。また、「その他」が41%であった。

Q17-3 上記Q16で、「1」を選択した人におたずねします。

スマートフォン版「東京アメッシュ」は、スマートフォンのGPS機能を活用して地図上に現在位置の表示や、任意に希望する2地点の登録ができるようになり、現在位置や登録した地点の降雨状況が一目で把握できるようになりました。この機能を活用したあなたの使い方や、使い方に関するアイデアをお聞かせください。（自由回答）

図表4-3-4 東京アメッシュのGPS活用アイデア



【東京アメッシュのGPS活用アイデア】

➤ 雲の動きを見ている

- ◇ 電車や車で移動しているときでも、リアルタイムに雨雲の動きを把握できるので、雨が降り出す時間帯が予測できる。（60歳代男性・23区）
- ◇ 今雨が降っているのか、少し待てばやむ雨なのか等、なんとなく知ることができて便利につかっています。スマホ版は、読み込みに時間がかかるのかあまり活用できていません。雨雲の速さや、浸水の危険なども、目安で良いのでもう少しテキスト等でわかるといいかなと思います。（20歳代女性・多摩地区）
- ◇ 自分の位置は必要あるのかどうか分からないが、アメッシュの雨雲の動きから早く帰ったら良いのか、少し休んで遅く帰ったら良いのかの判断には便利で重宝している。（40歳代男性・23区）

➤ 地点登録

- ◇ 子供の学校の位置の降雨状態を調べるのに使っている。 （50 歳代女性・23 区）
- ◇ 自宅、職場、家族の住居などを登録しておく。 （40 歳代男性・23 区）
- ◇ 自宅とか会社の位置を登録することで、通勤時の降雨情報を確認できる。
（20 歳代女性・多摩地区）

➤ 現在地の表示

- ◇ GPS 機能がついてとても便利になりました。 （40 歳代女性・23 区）
- ◇ 現在地が表示されるのは地図に不馴れな方でも使いやすいと思います。私の場合は、時系列の雨雲の動きでこれからの行動予測を立てるのに役立っています。 （30 歳代男性・多摩地区）
- ◇ 現在の位置から、目的地とする登録した地点までの間の降雨状況を調べることで、傘を使用する機会を減らす。 （20 歳代女性・23 区）

➤ お知らせ機能の追加

- ◇ 自分でアプリを起動することなく、台風や豪雨情報発令時は、プッシュ通知がくるとよい。
（30 歳代女性・23 区）
- ◇ 登録した地域の降水量が危険に達したらメールで知らせる機能があると良い。
（40 歳代男性・23 区）
- ◇ 登録地点へ豪雨が来ることが予想される際は事前に PUSH メッセージを頂けると助かります。
（40 歳代女性・多摩地区）

➤ 今後予測が欲しい

- ◇ 私は、画面で過去から現在までの5分ごとの雲の動きを見て、あと何分でこの雲がこちら（私の居る場所）に到着するのかを予想して助かっています。 （40 歳代男性・23 区）
- ◇ 今後予想もわかると良い。 （50 歳代男性・多摩地区）
- ◇ 現状のほか、今後の予想も知りたいので、雨雲の流れの予想図を載せてほしい。
（50 歳代女性・23 区）

➤ 遠出・行楽で利用

- ◇ 屋外でイベントや作業をする時に役立てています。 （40 歳代女性・多摩地区）
- ◇ 外出時や旅行先の雨予報をチェックし、活用している。 （40 歳代男性・多摩地区）
- ◇ 旅行先の天気の把握に使っています。 （40 歳代女性・23 区）

➤ その他

- ◇ 機能があるのは知っていましたが、使っていませんでした。これから使ってみます。
（40 歳代女性・23 区）
- ◇ 市区町村名も書いてあるとわかりやすいです。 （30 歳代女性・多摩地区）
- ◇ 希望する地点を登録するより、今いる場所をスピーディーに表示できれば良いと思います。
（40 歳代男性・23 区）

4.3.5 「東京アメッシュ」を利用していない理由

- ◆ 「東京アメッシュ」を利用していない理由について、「別の気象情報を使用している」が45%と最も高く、次いで「利用方法がわからない」が27%、「必要性が無い」が15%となった。
- ◆ 男女別にみると、「別の気象情報を使用している」では男性が44%、女性が46%と、女性と男性で大きな差は見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、「別の気象情報を使用している」では40歳代が54%と最も多く、次いで60歳代が43%、30歳代と50歳代がともに42%となった。（※20歳代を除く）
- ◆ 地区別にみると、「別の気象情報を使用している」では23区部が41%、多摩地区が50%と、多摩地区が23区部より9ポイント高い結果となった。

Q18 上記Q16で、「2」及び「3」を選択した人におたずねとお知らせします。

あなたは、なぜ、「東京アメッシュ」を利用しなくなった、又は、利用していないのですか？その理由を以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

図表4-3-5 「東京アメッシュ」を利用していない理由

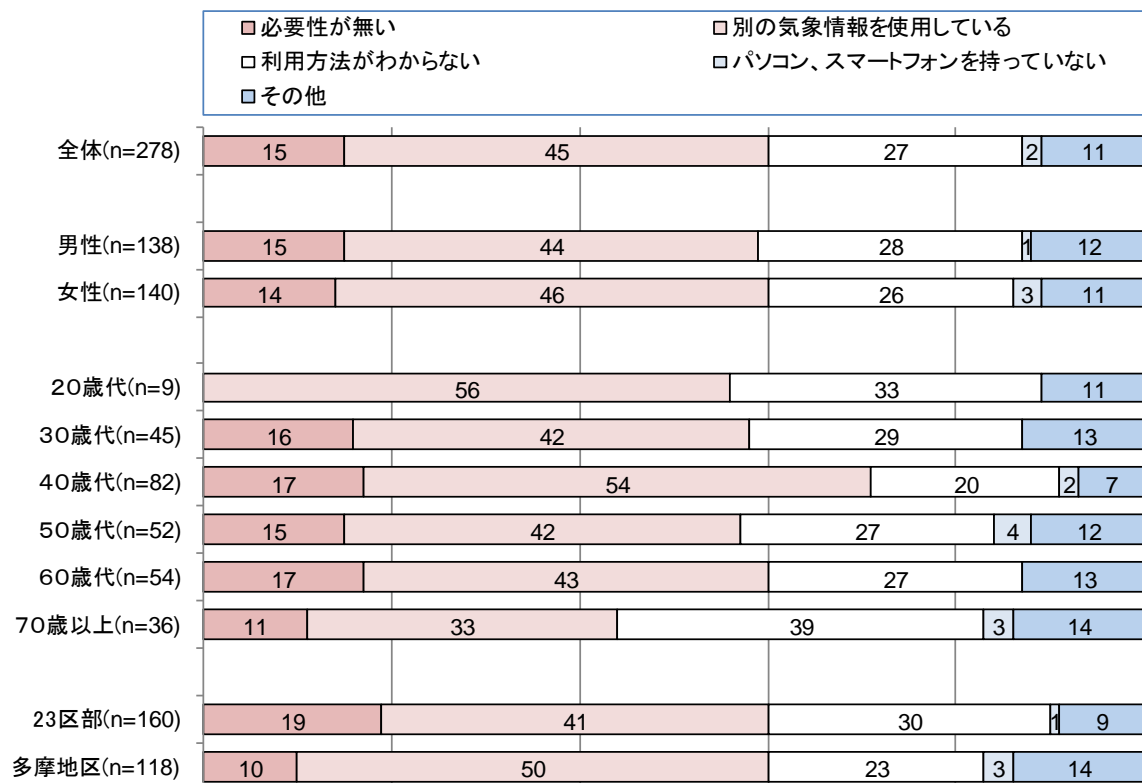


表4-3-5 「東京アメッシュ」を利用していない理由（その他）

| No | その他(内容) | 件数 |
|----|---------------------|----|
| 1 | 知らなかった | 12 |
| 2 | 忘れていた | 4 |
| 3 | 必要になったら使う | 4 |
| 4 | その他 | 3 |
| 5 | 必要性がない | 3 |
| 6 | 別の気象情報を使用している | 5 |
| 7 | パソコン、スマートフォンを持っていない | 2 |
| 計 | | 33 |